

日本紀標註

卷之二十六

二六	四三	和書門
架	函	類

三	四	和
七	三	書
函	七	
九	一	
架	八	
	二	
	六	

(天十二才)

內閣文庫	
番號	和 43718
冊數	26 ( 26 )
函號	137 99



Kodak Gray Scale

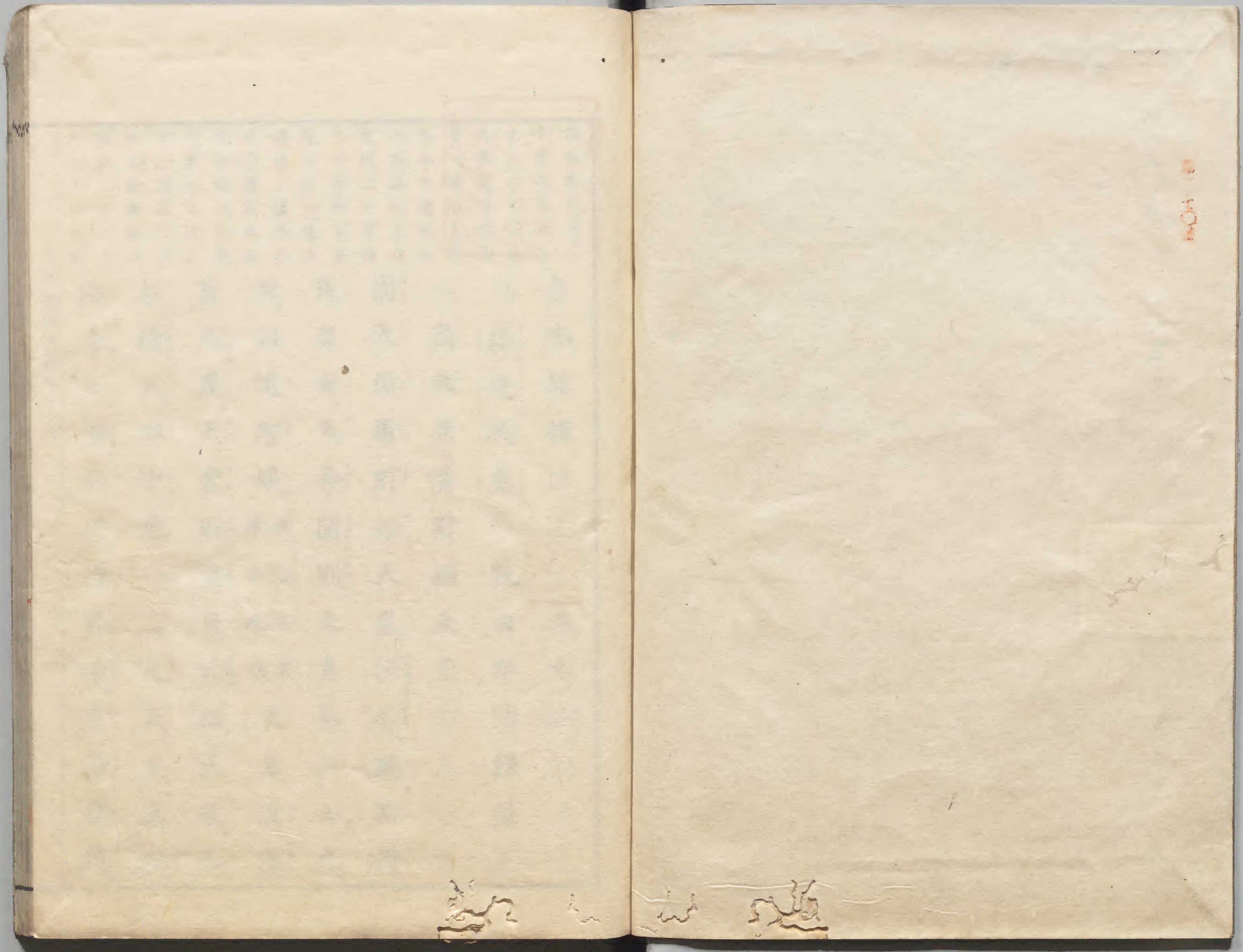
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak







紅印

魚

魚

魚

魚



原本卷首小日

本書紀卷第三

十とつて○高

天原廣野姫天

皇稱たり御

名ふて、續紀三

み奉詠太上天

皇諡曰大倭根

子天廣野日女

尊と何と後ふ

持統と諡奉れ

○讚良皇女

天智紀小婆羅

々皇女に作れ

○深沈字の

如し雄略紀小

徐歩セシメヤ

カニアルクと

日本紀標注卷之二十六

持統天皇

敷田年治謹注

高天原廣野姫天皇

高天原廣野姫天皇少名鷓野讚

良皇女天命開別天皇第二女也

母曰遠智娘更名美濃天皇深沈

有大度天豐財重日足姫天皇三

年適天淳中原瀛真人天皇為妃

雖帝王女而好禮節儉有母儀德

○日本紀標注卷之二十六

〇一



源氏薄雲  
 天命開別、天皇元年、生草壁皇子、  
 尊於大津宮、十年十月、從天渟中  
 原瀛真人、天皇入於吉野、避朝、猜  
 忌語、在天命開別、天皇紀、天渟中  
 原瀛真人、天皇元年夏六月、從天  
 渟中原上、上原  
 渟中原上、上原  
 本沙門の二字  
 あり、年治按ふ  
 沙門と書むに  
 ハ、沙門の名を  
 あり記すべきふ、  
 沙門某天皇と

軍將等、與大倭、桀豪、共誅大友、皇  
 旅會衆、遂與定謀、迺命敢死者  
 數萬、置諸要害之地、秋七月、美濃  
 渟中原瀛真人、天皇避難東國、鞠

子傳首、詣不破宮、二年立為皇后、  
 皇后從始迄、今佐天皇、定天下、每  
 於侍執之際、輒言及政事、多所毗  
 補、朱鳥元年九月、戊戌朔丙午、天  
 渟中原瀛真人、天皇崩、皇后臨朝、  
 稱制、  
 責免、免さざらむみハ、白骨を碎て天下小御孫ふとも、素より辞せざるをや、先  
 小も云る如く、此親王ハ慕漢、漢佛の僻に、免さざるをせしむる、或も漢史の文  
 を引て、我古傳を作て、是を国辱ともれもほさざらむ、或ハ胡佛の方便を尊み、遂小  
 皇考をすら、沙門、天皇と記して、忌憚らざるに至るとり、抑沙門とハ墳丁より、頭  
 陀煙亡まで、押並たる稱なるを、孝徳紀ふ云るが如し、○丙午九日、○桀豪ハ勇  
 士なり、○稱制、字書ハ成法曰制、唐六典ハ凡上之所以速下、其制有六、注ハ天子



曰制曰教曰冊皇太子曰令親王公主  
曰教漢書高帝紀云太后臨朝稱制

己巳二日○謀  
及名例律云謀  
反謂謀危國家  
注云謂臣下將  
圖逆節而有無  
君之心不敢指  
斥尊號故託云  
國家○捕皇子  
大津懷風藻云  
此謀反を告し  
ハ河嶋皇子ハ  
と記せり○ハ  
口朝臣姓氏錄  
云箭口朝臣宗  
我石川宿祢四世孫稻目宿祢之後也氏人ハ續紀廿五云箭口朝臣真弟三代實  
録卅二云箭口朝臣岑業賜宗岳朝臣○壹伎連博德孝德紀云注せり○中臣朝

冬十月戊辰朔己巳皇子大津謀

反發覺逮捕皇子大津并捕為皇

子大津所註誤直廣肆八口朝臣

音檀小山下壹伎連博德與大舍

人中臣朝臣麻呂巨勢朝臣多

益須新羅沙門行心及帳内礪杵

道作等三十餘人

臣麻呂ハ續紀五ハ中納言正四位上兼神祇伯中臣朝臣意美麻呂卒とあり  
公卿補任ハ加多能古連之曾孫小治田朝小徳冠国子之孫国足之子○巨勢朝  
臣多益須續紀五ハ從四位上巨勢朝臣多益須卒○帳内ハ親王の舍人を云軍  
防令ハ凡帳内取六位以下子及庶人為之又曰給帳内一品一百六十人二品一  
百四十人三品一百二十人四品一百人續紀五ハ取畿外人用帳内資人自今以  
後不得更然又曰帳内資人雖名入式部不在預選之限○礪杵姓氏錄云淺たて  
續後紀ハハ刀岐直雄貞と云人見臣文徳實録六ハ正六位上刀岐直川人等賜  
姓滋岳朝臣とあると何と姓祖詳あるべ然ど礪杵刀岐字の異なるのみ  
庚午三日○賜  
死万葉三ハ大  
津皇子被死之  
時の御作歌と  
て雲隠てふ歌  
見五ハ墓ハ  
葛下郡二上山  
の頂ハ向至○  
譯語田ハ式ハ  
大和国城上郡

庚午賜死皇子大津於譯語田舍

時年二十四妃皇女山邊被髮徒

跣奔赴殉焉見者皆戲歎皇子大

津天淳中原瀛真人天皇第三子

也容止墻岸音辭俊朗為天命開



他田坐天照御  
魂神社、とある  
地なり○皇女  
山邊ハ、天智天  
皇の御女○被髮、大和物語ハ、吾妹子がねくれたれ髪を、さる澤の、池の玉藻と見  
るぞるな、即腐乱あり、徒跣ハ履を、著るにぬりて、惣て取繕えぬ状を云、  
す良才形准、知るべし○獻歎、文選鸚鵡賦ハ、棄妻為之獻歎、李周翰ハ悲也、と注  
さり○瑞岸、文選三國名臣贊ハ、天骨踈朗、牆宇高嶷、李周翰ハ、若牆宇高、不可窺  
見其内也○詩賦、漢書藝  
文志ハ、不歌而誦謂之賦、

別、天皇、所愛、及長辨、有才學、尤愛  
文筆、詩賦、之興、自大津始也

丙申、詔曰、皇子大津謀反、誅誤吏

民帳内不得已、今皇子大津已滅、

從者當坐皇子大津者、皆赦之、但

礪杵、道作流伊豆、又詔曰、新羅、沙

懷風藻、大津皇  
子、傳ハ、時有新

羅僧行心、解天  
文ト筮語、皇子  
曰、太子骨法不  
是人臣之相、以  
此久在下位、恐不  
全身、因進逆謀、迷  
此註誤、遂圖不軌、  
嗚呼惜哉、緼彼良  
才、不以忠  
孝保身、近此奸豎、  
卒以戮辱自終、と  
あるを見るべし○  
不恐加法、按ハ世  
に火葬  
と云、る惡習、何  
ぞ、我風俗を乱セリ、  
凡天皇の尊き小  
して、火を以身を粉  
小す  
るハ、此天皇をホト  
ハ、兼、胡佛ハ、溺  
を、殊ふり、加、  
る、賊僧をも許し、  
殊ふ、  
移、互換る世中、  
トハ、云、ど為、  
あき業なるぞ、  
し、凡、古來國の  
禍乱ハ、佛と僧と  
を、  
起、起る、  
今、  
お、  
心、  
著、  
ける、  
人、  
の、  
あ、  
き、  
ハ、  
口、  
を、  
し、  
き、  
業、  
あ、  
ら、  
ば、  
○、  
伽、  
藍、  
ハ、  
欽、  
明、  
紀、  
ハ、  
注、  
セ、  
レ、  
○、  
壬、  
子、  
十、  
六、  
日、  
○、  
皇、  
女、  
大、  
來、  
ハ、  
大、  
津、  
皇、  
子、  
の、  
御、  
姊、  
なり、  
万、  
葉、  
二、  
ハ、  
大、  
津、  
皇、  
子、  
の、  
竊、  
下、  
於、  
伊、  
勢、  
神、  
宮、  
上、  
來、  
時、  
大、  
伯、

門行心、與皇子大津謀反、朕不忍

加法、徙飛驒、伽藍

十一月丁酉朔壬子、奉伊勢神祠

皇女大來、還至京師、癸丑、地震、十

二月丁卯朔乙酉、奉為天渟中原

瀛真人、天皇、設無遮大會、於五寺、

宮上、來時、大伯



皇女御歌あり

大宮、飛鳥、川原、小墾田、豊浦、坂田

○癸丑十七日

○乙酉十九日 ○無遮大會、續紀十六、設無遮大會於大安殿焉 ○五寺ハ、六寺  
不作るべし ○大宮ハ紀中大宮大寺と稱る寺あり、天武天皇十市郡より、高市  
郡小遷、跡ひあり ○飛鳥ハ、淨見原宮小近所、在寺あり、志小在上居村と記  
せり ○川原ハ、川原村小あり ○小墾田、此寺号書小見五、小墾田近、わたり小  
て、古刹を尋ぬべし、集解小、小墾田、豊浦と、續けをめるハ、五寺と云、小合むる  
あめれど、豊浦寺小のみ、地名を加へべき由おけと、用む ○豊浦、舒明紀小注せ  
て ○坂田、用明紀小注し  
つ、以上並、高市郡小在

壬辰廿六日 ○

差、潤十二月、筑紫、大宰、獻三國高

孤獨、和名抄大

麗百濟新羅百姓男女并僧尼六

須本小孤子、美

十二人、是歲蛇犬相交、俄而俱死

奈之古、史記、獲

也、俗小近親を

秦傳ハ、今其生

也、俗小近親を

者皆死、秦之孤

也、俗小近親を

也、俗小近親を

也、俗小近親を

其意あるべし、獨ハ其義小當る、古語を志らず、私記小比トリ比ト、とよき

戸令蝦寡孤獨の義解小、十六以下而無父為孤也、六十一以上而無子為獨也 ○

蛇犬相交、武烈紀小、牽馬就前遊北、和名抄小遊北、豆流比、日本靈異記小、婿、都流

夫、按蛇と交るハ、つるべきを、支那国ハ、犬と女と交しと、宋書五行志小見

元、元年春正月丙寅朔、皇太子率、公

卿百寮、人等、適、殯、宮、而、慟、哭、焉、納

言、布、勢、朝、臣、御、主、人、誄、之、禮、也、誄

畢、衆、庶、發、哀、次、梵、衆、發、哀、於、是、奉

膳、紀、朝、臣、眞、人、等、奉、奠、奠、畢、膳、部

采、女、等、發、哀、樂、官、奏、樂

波、天、乃、官、紀

和、名、抄、小、内、膳

司、字、知、乃、加、之

朝、臣、眞、人、天、武、紀、小、見、五、九、七、原、本、紀、七、乳、小、誤、れ、○膳、部、職、員、令、内、膳

司、小、膳、部、四、十、人、掌、造、御、膳、○樂、官、和、名、抄、小、雅、樂、寮、宇、多、末、比、乃、豆、加、佐

○日本紀標注卷之二十六

五



八十以上云々、  
戸令、小年八十  
及篤疾、給侍一  
人、又曰貧窮老  
疾、不能自存者、  
令近親收養○  
甲申十九日○  
田中朝臣法麻  
呂八、續紀一、  
直大肆と云々  
○守君、景行紀  
小見、正と云々○  
已卯十五日○  
賦田、受稟、字書  
小賦、給與也、稟  
賜穀也、和名抄  
小糧行所、賣米  
也、又儲食也、和

庚午、皇太子率、公卿百寮、人等、適  
殯、宮、而慟、哭、焉、梵衆隨、而發、哀、庚  
辰、賜、京師、年自、八十以上、及篤癘  
貧、不能、自存者、絶、絲、各有、差、甲申、  
使、直、廣、肆、田、中、朝、臣、法、麻、呂、與、追  
大貳、守、君、苺、田、等、使、於、新、羅、赴、天  
皇、喪、三、月、乙、丑、朔、已、卯、以、投、化、高  
麗、五、十、六、人、居、于、常、陸、國、賦、田、受  
稟、使、安、生、業、甲、申、以、華、縵、進、于、殯

名加、天、と、何、て、  
猶、神、武、紀、小、兵  
食、セ、よ、め、れ、バ、  
彼、處、小、注、せ、り、  
賦、田、以、下、八、字  
モ、後、漢、書、光、武  
紀、の、文、を、り、○  
甲申廿日○華  
縵、ハ、時、花、を、風、流、く、糸、に、貫、て、髮、髻、と、せ、し、も、の、あ、り、万、葉、十、九、の、今、日、曾、和、我、勢  
故、花、縵、世、余、是、を、華、鬘、又、華、蔓、あ、ど、書、て、ケ、マ、ン、と、云、る、ハ、佛、より、出、た、り、圖、書、式  
最、勝、會、佛、器、の、中、小、花、蔓、代、三、十、枚、と、見、出、た、り、○御、蔭、ハ、冠、の、古、名、小、て、播、磨、風  
土、記、小、品、太、天、皇、御、蔭、墮、於、此、山、故、曰、蔭、山、云、々、委、記、上、卷、投、棄、御、冠、と、何、る、標、注  
小、云、き、此、ハ、華、縵、を、仮、小、御、冠  
と、す、と、あ、る、○丙、戌、廿、二、日  
癸、卯、十、日、○乙  
酉、廿、二、日、○庚  
申、廿、八、日、○甲  
子、二、日、○負、債

宮、此、曰、御、蔭、是、日、丹、比、真、人、麻、呂  
誅、之、禮、也、丙、戌、以、投、化、新、羅、人、十  
四、人、居、于、下、毛、野、國、賦、田、受、稟、使  
安、生、業  
夏、四、月、甲、午、朔、癸、卯、筑、紫、大、宰、獻  
投、化、新、羅、僧、尼、及、百、姓、男、女、二十



者、日本靈異記  
可此と注せり  
職員令刑部首  
の義解ふ、毀財  
曰、債也、受貸不  
償曰、負也、原本  
債を情ふ誤を  
○乙酉年ハ、  
一昨年ハ、天  
武十四年あり  
○利をコノシ  
口とよめるハ、  
此をわきて、書  
小見匠、和訓  
禁二篇ハ、利ハ  
子代ハ、利息  
ありと云、○

二人、居于武藏國、賦田、受稟、使安  
生業、五月甲子朔乙酉、皇太子率  
公卿百寮人等、適殯宮而慟哭焉、  
於是隼人大隅阿多、魁師、各領已  
衆互進誅焉、六月癸巳朔庚申、赦  
罪人、秋七月癸亥朔甲子、詔曰、凡  
負債者、自乙酉年以前、物莫收利  
也、若既役身者、不得役利、辛未、賞  
賜隼人大隅阿多、魁師等、三百三

辛未九日、各  
下原本各何、  
各各と云、事、漢史ハ、志、見ゆまど、此紀  
小例おければ、一衍れると炳なれば削つ  
丙申五日、嘗  
于殯宮、礼祭、統  
小、秋祭、曰嘗、又  
曾子問、天子  
嘗禘と何、  
大全、宗廟之  
祭と注せれば、  
嘗とよむべし、  
釋紀、此嘗を  
ナメラヒクテ  
マツルとよみ、  
通證、直會と  
解、ナホラ  
ヒ、ナメラヒ

十七人、各有差  
八月壬辰朔丙申、嘗于殯宮、此日  
御青飯也、丁酉、京城耆老男女、皆  
臨慟哭於橋西、己未、天皇使直大  
肆藤原朝臣大嶋直大肆黃書、連  
大伴請集三百龍象大德等、於飛  
鳥寺、奉施袈裟、人別一領、曰、此以  
天渟中原瀛真人、天皇御服所縫



も、饌供を徹て、  
祭、小積るもの  
作也、詔、詞酸割不可具陳

打寄で、聲高く飲食をるを云、まば、次不嘗于殯宮、而慟哭焉、とあるも、御す然、  
不發哀樂、官奏樂、と何れバ、直會ありと思むり、樂ハ靈を慰るためかまば、別  
事ニ、其事古葬、微不記せるが如し、○青飯ハ、魚鳥の肉を用ひざる謂ふて、俗ニ  
精進物と云、可如し先帝佛を信、し、殊更不魚鳥を供ら、形、し、みや、  
是をヒシキヲモノとよめるを、神武紀ハ、天陰而雨氷と有り、喪不居て痛哭不  
堪、也、あるハ、空の打曇、たる如キの意あるべし、通證ハ、鹿尾菜之飯と云、るハ、俗意  
○丁酉六日、○耆老、字書不耆、老也とも、六十、曰耆とも注せり、○己未八日、○龍  
象、終靖紀ハ、沈毅をよめ、龍と象とふれば、大の意なり、大毗婆沙ハ、有大龍象、  
以信為手、以捨為牙、以慧為頭、以念為頸、於其兩肩、擔集善法、又智度論ハ、水行、中  
龍、力大、陸行、中象、力大、云々、○大德釋氏要覽ハ、大德、智度論曰、梵語婆檀陀、秦言  
大德、云々、源氏御法ハ、おん加持不、は、ふ、大とみだち、ど、經の僧かど云々、此  
語もの語、書不多く、大德ともめり、○酸割ハ、辛痛あり、古今不、加らくもわきハ、  
老不、るゝゝな  
○庚午九日、○  
國忌ハ、終の御  
拜、俗云一  
九月、壬戌朔、庚午、設國忌齋於京  
師、諸寺、辛未、設齋於殯宮、甲申、新

周、已と云、源  
氏、幻、ふ、きのふ  
け、ふ、と思ひ、孫  
ふる、ほ、ど、み、御  
て、も、や、う、く  
ち、加、う、あり、侍  
る、同、手、習、ふ、み  
ぞ、の、春、又、う、せ  
孫、ひ、ふ、け、き、バ、  
其、御、た、て、の、わ  
ぎ、せ、さ、せ、孫、て  
ん、云、々、職、員、令  
治、部、省、下、國、忌、の、義、解、不、謂、先、皇、崩  
日、也、○辛未十日、○甲申廿三日  
壬子廿二日、○  
大内陵ハ、下、ふ  
云、べ、し、○庚子  
十日、○新羅容、  
冬、十月、辛卯朔、壬子、皇太子率公  
卿百寮人等、并諸國司國造、及百  
羅遣王子金霜林、級喰金薩摹、及  
級喰金仁述、大舍蘇陽信等、奏請  
國政、且獻調賦、學問僧智隆附而  
至焉、筑紫大宰、便告天皇、崩於霜  
林等、即日霜林等、皆著喪服、東向  
三拜、三發哭焉



原本客字を脱  
ザリ、集解子補  
ハる子從ふ

辛酉二日  
丁卯八日○藥  
師寺八大和国  
高市郡子在、委  
天武紀子注せ  
己○壬午廿三  
日○辛卯二日

姓男女、始築オホチノ大内陵、十二月辛卯  
朔庚子、以直廣參路、真人迹見、為  
饗アキマフ新羅客、勅使、是年也大歲丁亥  
二年正月庚申朔、皇太子率公卿  
百寮人等、適殯宮、而慟哭焉、辛酉、  
梵眾發哀於殯宮、丁卯、設無遮大  
會於藥師寺、壬午、以天皇崩、奉宣  
新羅金霜林等、金霜林等、乃三發  
哭、二月庚寅朔、辛卯、太宰獻新羅

彩絹、仲哀紀子  
注子

己亥十日○乙  
己十六日  
戊午廿三日○  
己卯廿二日

調賦、金銀絹布皮、銅鐵之類、十餘  
物、并別所獻佛像種種、彩絹、烏馬  
之類、十餘種、及霜林所獻、金銀彩  
色種種珍異之物、并八十餘物、己  
亥、饗霜林等、於筑紫館、賜物各有  
差、乙巳、詔曰、自今以後、每取國忌  
日、要須齋也、戊午、霜林等罷歸、三  
月己未朔、己卯、以華縵進于殯宮、  
藤原朝臣大嶋誅焉、五月戊午朔



乙丑八日

戊戌十一日

丁卯十一日 ○  
丙子廿日 ○道  
藏、天武紀不見  
と、り ○不崇  
朝、詩、廊風、崇  
朝、其、雨、大、全、小  
崇、終、也、從、且、至  
食、時、為、終、朝 ○  
丙申十日 ○丁  
酉十一日 ○辛

乙丑、以、百濟、敬須、德那利、移、甲斐、

國、六月、戊子朔、戊戌、詔、令、天、下、繫、

囚、極刑、減、本、罪、一、等、輕、繫、皆、赦、除、

之、其、令、天、下、皆、半、入、今、年、調、賦、秋、

七月、丁巳朔、丁卯、大、雩、早、也、丙子

命、百濟、沙門、道藏、請、雨、不、崇、朝、遍、

雨、天、下、八、月、丁亥朔、丙申、嘗、于、殯、

宮、而、慟、哭、焉、於、是、大、伴、宿、禰、安、麻、

呂、誅、焉、丁酉、命、淨、大、肆、伊、勢、王、奉、

亥廿五日 ○戊  
寅廿三日 ○筑

紫館、万葉十五  
み、至、筑紫館、遠  
望、本、郷、云々、太  
宰府、在、在、館  
あり ○戊午四  
日 ○奉奠、舊讀  
ク、マ、タ、テ、マ、ツ  
ル、と、何、る、を、通  
證、和、名、抄、あ  
る、釋、米、を、引、々  
れ、ど、何、れ、も、誤  
と、り、釋、紀、の、秘  
訓、小、も、訓、を、除、  
た、と、バ、モ、ノ、ク  
テ、マ、ツ、ル、と、よ、む、し、  
度、故、名、續、紀、十、八、ふ、久、米、儻、楯、伏、蹈、歌、云々、職、員、令、雅、樂、寮、の、集、解、小、別、記、云、楯、臥

宣、葬、儀、辛亥、耽羅、王、遣、佐、平、加、羅、

來、獻、方、物、九、月、丙、辰、朔、戊、寅、饗、耽

羅、佐、平、加、羅、等、於、筑、紫、館、賜、物、各

有、差、冬、十、一、月、乙、卯、朔、戊、午、皇、太

子、率、公、卿、百、寮、人、等、與、諸、蕃、賓、客、

適、殯、宮、而、慟、哭、焉、於、是、奉、奠、奏、楯

節、儻、諸、臣、各、舉、已、先、祖、等、所、仕、狀、

逝、進、誄、焉

○日本紀標注卷之二十六

○十



舞十人、五人、土師宿祢五人、文忌寸等、右著甲并持刀、  
楠云々、顯宗紀、小味、隣とある、名ハ相似て別あり、

己未五日○乙  
丑十一日○當  
麻真人智德、續  
紀三、從四位  
上當麻真人智  
德卒○古云日  
嗣也、原本大字  
の書け、例を  
以て小字とす  
○大内陵、諸陵  
式、小、檜隈大内  
陵、在大和国高  
市郡、北域、東西  
五町、南北五町、  
陵戸五烟、志、小  
在五條野村、西、

而誅焉、乙丑、布勢、朝臣御主人、大  
伴、宿禰御行、進、誅、直廣肆當麻、

真人智德、奉誅皇祖等之騰極次  
第禮也、古云、日畢葬于大内陵、十

二月乙酉朔丙申、饗蝦夷、男女二  
百一十三人、於飛鳥寺、西、槻、下、仍

授冠位、賜物、有差

三年春正月甲寅朔、天皇朝萬國

于前、殿、乙卯、大學寮獻杖八十枚、

丙辰、陸奥國優嗜曇郡、城養蝦夷

務大肆、脂利古男麻呂、與鐵折、請

剔鬢髮為沙門、詔曰、麻呂等少而

閑雅寡欲、遂至於此、蔬食持戒、可

隨所請、出家修道

俗呼圓山、又名東明寺冢、即此岩窟廣大八尺許、深九尺許、內有雙石棺、

續紀三、小持統天皇をも、此大内山陵、合葬と記せり、○丙申十二日

乙卯二日○獻杖、公事根源正

月上、卯日、條、御杖ハ、持統天

皇三年正月云々、又仁壽二年

正月、諸衛府祝杖を献して、  
精魅を逐ふと見、  
以て惡鬼を拂ふ、  
ふみ、ちあり、  
作物所よりを、  
とゆを造物、  
して、其上、小若、  
む生氣、東、小、  
む、生、氣、東、小、  
む、生、氣、東、小、  
む、生、氣、東、小、



卯日、兵衛督以下参り、御杖を委する儀あり、色々の木ともせ、五尺三寸つゝに  
 二束三束ふゆひて奉る候、卯杖といふ云々、大舍人式に、凡正月上卯日、  
 供進御杖、其日質明、頭將舍人、候承明門外、舍人叩門曰、御杖進奉止、大舍人寮官  
 姓名、門候止申訖、掃部寮設案、於中庭、頭以下舍人以上各執杖、杖分、為兩行、入、至案  
 下立、頭進奏曰、大舍人寮申、正月能上、卯日能御杖、仕奉進、良申給、波久申、勅  
 曰、置之、屬以上稱唯、隨次相傳置案上、畢即退出、其杖曾波、木二束、比比良木、藁、半  
 保許、桃梅各六束、燒椿十六束、皮椿四束、黒木八束云々、猶續紀以下、西宮記、北山  
 抄、江次第等、見、近てたふと趣、此儀式、原支那国より起、たるも、此ふ、皇国  
 小、七、じ、ゆり、たる、ふ、い、あ、る、ず、○丙辰三日、原本丙辰、下詔曰、務大肆と、る、ハ、行  
 じ、バ、削る、○優嗜曇ハ、ウキタとよむべし、因造本紀に、浮田、因造、何、○城養、  
 齊明紀に、柵養と、る、に、お、好、じ、○務大肆、原本丙辰、下、り、る、を、集解に、爰、改、  
 加、たる、に、從、ふ、○鐵、色、葉、字、類、抄、に、カ、子、と、よ、多、り、○閑雅神代紀に、容、額、且、關、と  
 何、○蔬食、和名抄に、草、間、食、曰、菜蔬、久佐非良、論語に、雖、蔬、食、菜、羹、凡、祭、○持戒、  
 梵網經に、快意殺生、劫盜人物、無慈行欲、故、心、妄、語、酤、酒、生、罪、談、他、過、失、自、讚、毀、他、  
 慳、生、毀、辱、瞋、不、受、謝、毀、謫、三、善、七、十、  
 戒、と、稱、し、此、外、四、十、八、戒、を、載、たり、  
 庚申七日○辛酉八日○壬戌  
 庚申、宴公卿、賜袍袴、辛酉、新羅使

九日○灌頂幡  
 推古紀に注七  
 日○戊辰十五  
 日○巳巳十六  
 日○辛未十八  
 日○甲戌廿日  
 ○丙申十三日  
 ○滿年限者登  
 軍防令に、衛士  
 防人還郷之日、  
 並免国内、上、蚕、  
 衛士、一年、防人、  
 三年、義解、子、征、  
 人、還郷之日、須、  
 相、准、免、假、令、經、  
 一年、者、免、一、年、  
 徭、役、經、二、年、者、  
 免、二、年、徭、役、類、  
 ○日本紀標注卷之二十六  
 十一  
 人田中、朝臣法麻呂等、還自新羅、  
 壬戌、詔出雲國、司上、送遭、値風浪、  
 蕃人、是日、賜越蝦蟇沙門道信、佛  
 像一軀、灌頂幡、鐘鉢各一口、五色、  
 絲各五尺、綿五屯布一十端、鍬一  
 十枚、鞍一具、筑紫、大宰粟田真人、  
 朝臣等、獻隼人一百七十四人、并  
 布五十常、牛皮六枚、鹿皮五十枚、  
 戊辰、文武官人進薪、己巳、賜百官、



也、是子て防人  
防子在て、三年  
みして交代せ  
し我知るべし  
○粟田真人朝  
臣ハ、粟田朝臣  
真人を云○巳  
酉廿六日○竹  
田王、天武紀  
見をたり○土  
師宿祢根麻呂  
續紀一ハ、直廣  
參と何て○藤  
原朝臣史を、フ  
ヒトとよむべ  
し、下み不比等  
此作まり、此人  
官位漸進み、續

人等<sup>ヲシテ</sup>食<sup>ヲシテ</sup>辛未、天皇幸吉野宮、甲戌、  
天皇至<sup>ニ</sup>自吉野宮、二月甲申朔丙  
申、詔筑紫、防人<sup>サキ</sup>滿<sup>ミタ</sup>年限<sup>ニ</sup>替<sup>ニ</sup>、巳酉、以<sup>テ</sup>  
淨廣肆竹田王、直廣肆土師、宿禰  
根麻呂、大宅<sup>オホ</sup>朝臣麻呂、藤原朝臣  
史、務大肆當麻、真人櫻井、穗積、朝  
臣山守、中臣朝臣<sup>オミ</sup>麻呂、巨勢朝  
臣多<sup>タ</sup>益<sup>ヤ</sup>須<sup>ス</sup>、大三輪朝臣安麻呂、爲<sup>ニ</sup>  
判事<sup>ヲ</sup>、  
官位漸進み、續

紀ハ、右大臣正二位、藤原朝臣不比等薨、帝深悼惜、馬爲之廢朝、舉哀、内寢、特有  
優勅、吊賻之禮、異于群臣、大臣、近江朝、内大臣、大織冠鎌足之第二子也、云々、宣詔  
贈太政大臣正一位○當麻真人櫻井ハ、續紀六ハ、從四位下當麻真人櫻井卒○  
穗積朝臣山守ハ、續紀五ハ、正五位下と何て、卒日を脱せり○中臣朝臣臣麻  
呂ハ、意美麻呂とて、上ハ注せり、原本朝臣の二字を脱○大三輪朝臣安麻呂、續  
紀六ハ、兵部卿從四位上大神朝臣安麻呂卒○判事、職員令刑部省ハ、大判事中  
判事少判事を記せれど、是ハ其ハ  
何れで、政事を判決する職名あり

丙子廿四日○  
庚寅八日○  
未十三日○  
草壁皇子尊薨、按  
天武天皇ハ、朱  
鳥元年九月ハ  
崩路ひて、其ハ  
三年を經て、  
今年四月までハ、此尊の御世ありしと、更ハ疑ハ、其ハ播磨風土記、鰐磨郡  
大野里、條ハ、嶋宮、御宇天皇、之御世とハ中臣宮處、氏ハ系帳ハ高市之嶋宮治、天

三月癸丑朔丙子、大赦天下、唯常、  
赦所<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>免<sup>レ</sup>、不在<sup>ニ</sup>赦例<sup>ニ</sup>、夏四月癸未、  
朔庚寅、以<sup>テ</sup>投<sup>マ</sup>化<sup>ケル</sup>新羅人<sup>ヲ</sup>、居于<sup>ニ</sup>下毛  
野<sup>ニ</sup>、乙未、皇太子草壁皇子尊薨



下天皇之御世とも傳たる、即草壁天皇の御事にて、万葉二ふ、此尊の薨後ふを、  
 高麗歌中、高麗我日皇子乃、萬代爾國所知麻之、島宮婆毛、又高麗吾日皇子乃、  
 伊座世者、島御門者不荒有益乎、ふど併見るべし、嶋宮ハ天武紀ハ見えて、大和  
 國高市郡ハ在り、此宮ハして皇統と繼坐しを、此紀ハ一御代ハ立さざりしハ、由  
 りるに、次の四年正月、條ハ皇后即天皇位と、而るにても、元年より後ハ此尊  
 の御世ありしと知るべし、續紀廿一、天平寶字二年、條ハ勅日並知皇子命、天下  
 未辨天皇、追崇尊号、古今恒典、自今以後、宜奉稱岡宮御宇天皇とあり、日並知皇  
 子ハ此草壁皇子の更名ハて、岡宮ハ御陵地の、真弓岡を略たるあり、万葉二ふ  
 も、由縁母無真弓乃、崗爾宮柱太布座、御在香乎高知座而云々、諸陵式ハ真弓丘  
 陵岡宮御宇天皇、在大和國高市郡北城東西二町南北二町、陵戸六畑ふど、陵と  
 申御宇と申、正帝ハ坐しと異論あり、紹運録ハ此尊を長岡天皇と記せるを、明  
 治改制の御追謚ハ、洩たるハ、万代の遺憾と云べし、猶神功皇后及飯置青尊等  
 の處ハ論るハ、と  
 而併考ふべし  
 壬寅廿日 ○阿  
 彌陀、饒譯名義  
 集ハ、清淨平等  
 經を引、饒無

壬寅、新羅遣級、食金道那等、奉吊  
 瀛真人、天皇喪、并上送學問僧明

量清淨佛、無量  
 壽經、饒無量壽  
 佛云々、按ハ阿  
 彌陀ハ心臓の  
 異名あると、魂  
 乃由久閑ハ弁  
 れきつ ○觀世  
 音、上ハ注せり  
 ○大勢至ハ、觀無量壽經ハ、以智慧之光、普照一切令離三途、得無上刀、是故號此  
 菩薩名大勢至 ○甲辰廿二日 ○春日王詳あらば、紹運録ハ天智天皇の御孫、施  
 基皇子の男ハ、春日王ゆとど、此王續紀ハ一ハ、卒日ハ記せられ、混べらば、○巳  
 酉廿七日 ○放假四日、假寧令ハ、凡在京諸司、每六日、並給休假一日とあり、仕丁  
 の假准、知るべ  
 し ○甲戌廿二  
 日 ○元年、原本  
 二年ハ作とり、  
 今釋紀の私記  
 の説ハ、據て改

聰觀智等、別獻金銅阿彌陀像、金  
 銅觀世音菩薩像、大勢至菩薩像、  
 各一軀、綵帛錦綾、甲辰春日、王薨、  
 巳酉、詔諸司、仕丁、十月、放假四日、  
 五月癸丑朔、甲戌、命土師宿禰根  
 麻呂、詔新羅吊使、級食金道那等、  
 曰太政官卿等、奉勅、奉宣、元年遣



し○大行天皇、  
後漢書何進傳、  
今大行在前、  
殿注、人主崩、  
未有議、故稱大、  
行也、孔叢子、  
諱死謂之大行、  
○蕪判位、釋紀、  
私記曰、蕪音、  
通判音于、集解、  
東國通鑑、新、  
羅設官有十七、  
等、三曰通、  
此と云、此説、  
然るべし、按通、  
食ハ我三位の、  
官不當るを、法麻呂此時直廣肆ハク、第十、十六等の爵位ハク、使人の位の下、  
也、然云、り○巨勢稻持ハ、欽明元年、紀見ミ、近チカ、なり、此人孝德天皇の御喪を告

田中朝臣法麻呂等、相告大行天  
皇喪時、新羅言新羅奉勅人者、元  
來用蕪判位、今將復爾、由是法麻  
呂等不得奉宣赴告之詔、若言前  
事者、在昔難波宮治天下、天皇崩  
時、遣巨勢稻持等告喪之日、醫食  
金春秋奉勅而、言用蕪判奉勅即  
違前事也

しと、紀ハ洩れれど、位ハ猶下ヒキ、わりけむせ、證ハ引出たり○  
醫食東國通鑑ハ、新羅官第六等ハ阿食アチキ、而、是を云る、  
近江宮ハ、天智  
天皇の朝○一  
吉食ハ、東國通  
鑑ハ、新羅官第  
七等の官あり、  
原本吉を告み  
作るハ誤れ  
○級食ハ、新  
羅官第九等ハ、  
級伐食キツキ、而、略、  
て級食と云、  
○不干楨云、  
々、神功紀ハ、新  
羅王叩頭之曰、  
從今以後、伏為  
飼部、其不乾カサ、  
職而、傷清白、詐求幸媚、是故調賦

云、我國自日本遠皇祖代、並舳不  
干楨、奉仕之國、而今一艘亦乖、故  
典也、又奏云、自日本遠皇祖代、以  
清白心、仕奉而不惟、竭忠宣揚本  
職而、傷清白、詐求幸媚、是故調賦



拖云々○一艘  
 神功紀み、常以  
 八十船之調、貢  
 于日本国○幸  
 媚をマメキコ  
 ブルとよめり、  
 真メキホて、メ  
 キと辞あり○  
 封以還之、敏達  
 九年、紀み、新羅  
 遣、安刀奈末失消奈末、進調不納以還之、同十一年、紀み、新羅復進調不納  
 以還之○戦々競々ハ、詩大雅み見せし、オヂテ、キとむべし  
 癸未二日○佐  
 味朝臣宿那麻  
 呂、天武紀み、山  
 麻呂み作れり  
 ○羽田朝臣齊  
 續紀一み直廣

與別獻、並封以還之、然自我國家  
 遠、皇祖代、廣、慈、汝等之德、不可絶  
 之故、彌勤、彌謹、戰戰兢兢、修其職  
 任、奉遵法度者、天朝復益廣慈耳  
 汝道那等、奉斯所勅、奉宣汝王  
 六月壬午朔、賜衣裳筑紫、太宰等  
 癸未、以皇子施基、直廣肆佐味朝  
 臣宿那麻呂、羽田朝臣齊、

參波多朝臣牟  
 後問、同二み、牟  
 胡問に作とり、  
 齊字をムゴへ  
 と訓をるハ未  
 考、且、訓注五、  
 字を、此紀み、仮名み用、たる例あけれど、續紀一みあるに照して、濁音みよむべし、  
 原本訓注み、齊字を落せり、例みしてて補み○伊余部連馬飼、姓氏録み、伊與部  
 高、堀牟須比、命三世孫、天辞代主命之後也、續紀一み、直廣肆伊余部連馬養み作  
 れり○調忌寸老人、續紀一み、直廣肆調伊美伎老人とあり○大伴宿祢手拍、續  
 紀六み、造宮卿從四位下、大伴宿祢手拍卒○善言司、古語拾遺、大宮賣神の古注  
 み、太玉命久志備所生神、如今、世内侍善言美詞和君臣間、令宸襟悦懌、孟子み禹  
 聞善言、則拜、按み上代天下億長の善言  
 美詞を撰て、是を教導み用ひしみや  
 庚子十九日○  
 續守言薩弘恪  
 の二人、唐書み  
 洩り○辛丑

勤廣肆伊余部連馬飼調忌寸老  
 人、勢大參大伴宿禰手拍與巨勢  
 朝臣多益須等拜撰善言司  
 庚子、賜唐國續守言、薩弘恪等、稻  
 各有差、辛丑、詔大宰粟田真人朝



廿日○乙巳廿三日○小郡詳  
 於筑紫大郡と  
 新羅師友、縣各一百四十斤、乙巳、  
 於筑紫小郡、設新羅吊使金道那  
 等、賜物各有差、庚戌、班賜諸司令、  
 一部二十二卷、  
 更欲定律令改  
 法武、同十一年八月、紀、造法令とある即此令にて、續紀二、三品刑部親王云  
 々、撰定律令、於是始成、大略以淨御原朝庭為准正、按弘仁格序、至天智天皇  
 元年、制令二十二卷、世人所謂近江朝廷之令也と、あるを併れども、天智の御  
 世の令を、先朝に取捨し、是に至り班賜ひし、此書世に傳むれば惜むべ  
 く、見とるるハ大寶令を指  
 婆羅、和名抄器  
 血部、鈔鑼、銅  
 秋七月壬子朔、付賜陸奥蝦夷沙

器也、二音與沙  
 羅同、俗云沙布  
 羅、今按或説云、  
 新羅金、梳、出新  
 羅國、後人謂之  
 新羅者、新之訛  
 也、東雅ハサフ  
 ラ、俗ハサハ  
 リと云、ハ、サフ  
 ラの轉じたる  
 あり云々○香爐也、此時代より始ル、前後惣て佛器のみ○丙寅十五日○左  
 右京職、天武紀に見たり○射をイクサとよめるも、縣居翁が射合箭と云、  
 築習射の場にて、和名抄ふ  
 射塚、以久波止古路と注せり  
 辛未廿日○偽  
 兵衛、繼體紀、  
 捉をカス、  
 とよみ、皇極紀  
 臣等、賜學問僧明聰觀智等、為送  
 門自得、所請金、銅藥師佛像、觀世  
 音菩薩像、各一軀、鍾、娑羅、寶帳、香  
 爐、幡等物、是日新羅、吊使、金道那  
 等罷歸、丙寅、詔左右京職及諸國、  
 司、築習射所  
 辛未、流偽兵衛河内國澁川郡人、  
 柏原、廣山、于土左國、以追廣參、授



小求投を、カス  
 ウとよきり、兵  
 衛ハ軍防令、  
 国司簡郡司、子  
 弟強幹、便於弓云  
 馬者、郡別一人、  
 貢之とある哉、国司の簡點を經ず、詐偽を以て、上、來りしと見ゆれば、偽と云  
 ルむ○柏原、姓氏録、柏原連、伊香我色乎命之後○生部連、姓氏録、減れど、  
 姓祖詳ふらば、氏人の續紀廿六、生部直清、刀自、日本後紀十三、生部連廣成  
 ふど云、人見○甲戌廿三日○八釣魚、此魚、字をナとよめる例、国典字微、小委、  
 記しおきつ○  
 壬午二日○神  
 祇官ハ、和名抄  
 小加美豆加佐  
 と注し、此官爰  
 小えとめて見  
 正れど、繼體  
 紀欽明紀等、  
 於攝津、國武庫、海、一千步、内、紀伊、  
 申、天皇幸吉野、宮、丙申、禁斷漁獵  
 神祇官、而奉宣天神地祇之事、甲  
 秋、八月辛巳朔壬午、百官會集於  
 國阿提郡、那耆野、二萬頃、伊賀、國  
 伊賀郡、身野、二萬頃、置守護人、准  
 河内、國大鳥郡、高脚海、丁酉、賞賜  
 公卿、各有差、辛丑、詔伊豫、搃領田  
 中、朝臣法麻呂等、曰、讚吉國御城  
 郡、所獲白鷺、宜放養焉、癸卯、觀射  
 海、武庫、郡の  
 海あり、万葉三  
 武庫乃海、船、  
 爾波有之、伊射里、  
 為流、海部乃釣、  
 船、浪上、從所見○  
 一千歩ハ、一歩  
 を一間と定め、千間、  
 四方を云○阿提郡、  
 續紀三、紀伊國阿提、  
 飯高、牟漏三郡、獻  
 銀、日本後紀十四、  
 改紀伊國安諦郡、  
 為在田郡、以詞涉、  
 天皇、諱也、とあるハ、  
 平城  
 天皇の御名を、安殿と  
 申しゆゑ、改たり○  
 那耆野、和名抄同郡、  
 郷名、奈郷、何ぞ  
 ○身野、記の中卷に、  
 師木津日子命者、伊賀、  
 三野之稻置之祖○  
 高脚、万葉一、高  
 師、小作、垂仁紀、  
 高石、小作、まり、土人、  
 ハ高石と呼ぶらへり、  
 扱高脚以南ハ、和

既、神祇伯見、  
 たれば、官の序  
 なくして、波た  
 るなり、此官を  
 神代より設、  
 ひしと、其證と  
 も委、官故、小記  
 しれきつ○甲  
 申四日○丙申  
 十六日○武庫  
 海、武庫、郡の  
 海あり、万葉三  
 武庫乃海、船、  
 爾波有之、伊射里、  
 為流、海部乃釣、  
 船、浪上、從所見○  
 一千歩ハ、一歩  
 を一間と定め、千間、  
 四方を云○阿提郡、  
 續紀三、紀伊國阿提、  
 飯高、牟漏三郡、獻  
 銀、日本後紀十四、  
 改紀伊國安諦郡、  
 為在田郡、以詞涉、  
 天皇、諱也、とあるハ、  
 平城  
 天皇の御名を、安殿と  
 申しゆゑ、改たり○  
 那耆野、和名抄同郡、  
 郷名、奈郷、何ぞ  
 ○身野、記の中卷に、  
 師木津日子命者、伊賀、  
 三野之稻置之祖○  
 高脚、万葉一、高  
 師、小作、垂仁紀、  
 高石、小作、まり、土人、  
 ハ高石と呼ぶらへり、  
 扱高脚以南ハ、和



泉国あるを、此、河内国と記せるに、未、分立せざりし前あればなり。○丁酉十  
七日○辛丑廿一日○御城郡、和名抄ふ三木、不作れり。○白鷺、續紀一、伊豫国  
獻白燕○癸卯  
廿三日○庚申  
十日○每於一  
国四分、軍防令  
み、應點入、軍者、  
同戸之内、每三  
丁取一丁○丁  
丑廿七日○巳  
丑十日○位記  
次、不、搜、官、人、位  
記とも、何、也、按  
み、爵、位、を、賜、ふ  
表、物、り、上、代、よ  
り、此、の、づ、り、  
定、り、り、む、を、  
其、の、定、り、ふ

泉国あるを、此、河内国と記せるに、未、分立せざりし前あればなり。○丁酉十  
七日○辛丑廿一日○御城郡、和名抄ふ三木、不作れり。○白鷺、續紀一、伊豫国  
獻白燕○癸卯  
廿三日○庚申  
十日○每於一  
国四分、軍防令  
み、應點入、軍者、  
同戸之内、每三  
丁取一丁○丁  
丑廿七日○巳  
丑十日○位記  
次、不、搜、官、人、位  
記とも、何、也、按  
み、爵、位、を、賜、ふ  
表、物、り、上、代、よ  
り、此、の、づ、り、  
定、り、り、む、を、  
其、の、定、り、ふ

閏八月辛亥朔庚申、詔、諸國司曰、  
今、冬、戸籍可造、宜、限、九月、糺、捉、浮  
浪、其、兵士者、每於一國、四分而點  
其一、令、習、武事、丁丑、以、淨、廣、肆、河  
内、王、爲、筑紫、大宰、帥、授、兵、仗、及、賜  
物、以、直、廣、壹、授、直、廣、貳、丹、比、真人  
嶋、增、封、一、百、戸、通、前、九月、庚、辰、朔  
己丑、遣、直、廣、參、石、上、朝、臣、麻、呂、直

見、な、る、の、成、  
務、五、年、紀、小、国、  
郡、立、造、長、縣、邑、  
置、稻、置、並、賜、楯、  
予、以、爲、表、其、後、推、古、天、皇、十、一、年、小、至、マ、始、て、十、二、階、の、冠、位、を、製、マ、孝、德、天、皇、三、  
年、小、七、色、十、三、階、の、冠、小、革、の、同、五、年、に、増、シ、十、九、階、と、シ、天、智、天、皇、三、年、小、二、十、  
六、階、小、定、め、天、武、天、皇、十、四、年、小、親、王、諸、王、小、十、二、階、諸、臣、小、四、十、八、階、合、て、六、十、  
階、小、増、し、此、御、代、小、至、り、給、送、位、記、と、り、る、故、思、ふ、小、上、代、冠、小、品、位、何、マ、し、ゆ、  
殊、更、に、位、記、を、ハ、賜、ま、ご、り、し、故、是、よ、り、し、て、冠、に、位、記、を、加、た、る、に、や、其、後、冠、を、  
賜、ふ、を、停、め、て、位、記、の、み、を、た、ま、ひ、し、り、大、寶、元、年、三、月、を、り、續、紀、五、大、寶、元、年、  
三、月、小、至、マ、親、王、の、品、位、四、階、を、明、冠、と、し、諸、王、一、位、より、五、位、ま、で、十、四、階、を、淨、  
冠、と、シ、諸、臣、三、位、以、上、六、階、を、正、冠、と、し、五、位、以、上、八、階、を、直、冠、と、し、六、位、四、階、を、  
勤、冠、と、し、七、位、四、階、を、務、冠、と、シ、八、位、四、階、を、追、冠、と、し、初、位、四、階、を、進、冠、と、し、合、  
て、四、十、八、階、小、定、め、給、ひ、始、停、賜、冠、易、以、位、記、と、り、る、を、見、る、べ、し、如、此、位、記、小、易、給、  
ひ、て、後、も、叙、爵、と、云、を、か、り、り、給、む、と、書、る、に、古、の、遺、れ、る、な、り、叙、位、記、の、  
式、ハ、公、式、令、西、宮、記、北、山、抄、等、小、見、と、れ、バ、爰、小、略、○新、城、三、代、實、錄、十、二、小、太、  
宰、府、司、於、城、山、四、王、院、轉、讀、金、剛、般若、經、云、々、と、り、  
る、地、小、て、太、宰、府、より、筑、後、小、越、る、處、の、山、あり

廣、肆、石、川、朝、臣、虫、名、等、於、筑、紫、給、  
送、位、記、且、監、新、城、  
置、稻、置、並、賜、楯、  
予、以、爲、表、其、後、推、古、天、皇、十、一、年、小、至、マ、始、て、十、二、階、の、冠、位、を、製、マ、孝、德、天、皇、三、  
年、小、七、色、十、三、階、の、冠、小、革、の、同、五、年、に、増、シ、十、九、階、と、シ、天、智、天、皇、三、年、小、二、十、  
六、階、小、定、め、天、武、天、皇、十、四、年、小、親、王、諸、王、小、十、二、階、諸、臣、小、四、十、八、階、合、て、六、十、  
階、小、増、し、此、御、代、小、至、り、給、送、位、記、と、り、る、故、思、ふ、小、上、代、冠、小、品、位、何、マ、し、ゆ、  
殊、更、に、位、記、を、ハ、賜、ま、ご、り、し、故、是、よ、り、し、て、冠、に、位、記、を、加、た、る、に、や、其、後、冠、を、  
賜、ふ、を、停、め、て、位、記、の、み、を、た、ま、ひ、し、り、大、寶、元、年、三、月、を、り、續、紀、五、大、寶、元、年、  
三、月、小、至、マ、親、王、の、品、位、四、階、を、明、冠、と、し、諸、王、一、位、より、五、位、ま、で、十、四、階、を、淨、  
冠、と、シ、諸、臣、三、位、以、上、六、階、を、正、冠、と、し、五、位、以、上、八、階、を、直、冠、と、し、六、位、四、階、を、  
勤、冠、と、し、七、位、四、階、を、務、冠、と、シ、八、位、四、階、を、追、冠、と、し、初、位、四、階、を、進、冠、と、し、合、  
て、四、十、八、階、小、定、め、給、ひ、始、停、賜、冠、易、以、位、記、と、り、る、を、見、る、べ、し、如、此、位、記、小、易、給、  
ひ、て、後、も、叙、爵、と、云、を、か、り、り、給、む、と、書、る、に、古、の、遺、れ、る、な、り、叙、位、記、の、  
式、ハ、公、式、令、西、宮、記、北、山、抄、等、小、見、と、れ、バ、爰、小、略、○新、城、三、代、實、錄、十、二、小、太、  
宰、府、司、於、城、山、四、王、院、轉、讀、金、剛、般若、經、云、々、と、り、  
る、地、小、て、太、宰、府、より、筑、後、小、越、る、處、の、山、あり



庚申十一日○高安城ハ、河内國小テ、天智紀ニ注セリ○辛未廿二日○下毛野朝臣子麻呂、續紀四小、式部卿大將軍、正四位下、下毛野朝臣古麻呂卒○奴婢云々ハ、賤セ免シテ良とあるセ云○丙戌廿二日○市中、原本下上小誤レテ、類聚國史小據テ改ム、其石成リ名譽セ人小、知ラシメムル者、市中ニテ賜ヒシ小也○三兵七、通證小弓、劔槍小ヤト云、○丙辰八日○雙六ハ、和名抄小一名六米、俗云須久呂久万葉十六ハ、詠雙六頭、一二之目耳不有、五六、三四、佐倍有、雙六乃佐獻、彈正式小、雙六者無論高下、一切禁斷、五雜俎小、雙陸一名握槊、本胡戲也云、胡王有弟一人、得罪將殺之、其弟於獄中為此戲、以上其意言孤、則為人所擊、以諷王也、曰握槊者

冬十月庚戌朔庚申、天皇幸高安城、辛未、直廣肆下毛野朝臣子麻呂、奏欲免奴婢陸佰口、奏可、十一月己丑朔丙戌、於市中褒美追廣貳高田首石成之、關於三兵賜物、十二月己酉朔丙辰、禁斷雙六

象形也、曰雙六者子隨殿行、若得雙六則無不勝也、又名長行、又名波羅塞戲、其法以先歸宮為勝云々、潛確類書云、雙六乃出天生涅槃經、名為波羅塞戲、大盾、續紀九小、大嘗備前國為由機、播磨國為須機云々、從六位上石上朝臣諸男、從七位上榎井朝臣大嶋等卒、内物部立神、植於齋宮、南北二門、儀式大嘗祭儀小、令兵車寮作大嘗宮焉

四年春正月戊寅朔、物部麻呂朝臣樹大盾、神祇伯中臣大嶋朝臣讀天神壽詞、畢忌部宿禰色夫知、奉<sub>ニ</sub>上神璽、劔鏡於皇后、皇后即天皇位、公卿百寮羅列、匝拜而拍手

南北門、神植四枚、戟八竿云々、植注小各長一丈二尺、上廣三尺九寸、中廣四尺七寸、下廣四尺四寸五分、厚二寸、丹波國植、縫氏作之、大嘗祭儀式具釋小神植ハ長三尺バカリ、廣一尺二寸許、頭ハ欠タルガ如クニテ、尖リタル所玉ツバカリ出ル、裏ノ方ニ執手アリ、表裏共ニ黒漆ナリ云々、是ハ按小後小華、たる状を記セ



るあり、猶大嘗祭式、詳ふれむ云、○中臣大嶋朝臣ハ、天武紀に見えり、○  
天神壽詞ハ、吉言みて、天智紀ハ賀正事をよみ、續紀卅八ハ、出雲臣国成等奏神  
吉事、あつて、叔舊事紀ハ、天種子命奏神代古事、天神壽辭也とある、中臣氏  
の奏す天神壽詞、ふて、齊明天皇の御代ハ、大義冠中臣連静が奏上天神壽詞と  
中臣宮處、本系帳ハ見と神祇令凡踐祚之日、中臣奏天神之壽詞、ふと見え  
其より降、てハ、つと、康治元年十一月、台記別記ハ見と、中臣壽詞と云  
もの、何、其、御代毎の大嘗祭の、ト食、當、悠紀、主基の、国郡と、年号と、其  
ふ、關、る、人、の、姓、名、と、唱、易、る、の、み、に、て、餘、ハ、上、代、の、儘、を、傳、來、つ、と、見、て、  
其、詞、の、古、雅、あ、る、ハ、大、枝、詞、ハ、引、出、ッ、ベ、シ、現、御、神、止、大、嶋、國、所、知、食、須、大、枝、根、子、天  
皇、御、前、仁、天、神、乃、壽、詞、遠、稱、辭、定、奉、此、皇、孫、尊、波、高、天、原、仁、神、留、坐、須、皇、親、神、漏、岐  
神、漏、美、乃、命、遠、持、天、八、百、萬、乃、神、等、遠、集、賜、天、皇、孫、尊、波、高、天、原、仁、事、始、天、豐、華  
原、乃、瑞、穗、乃、國、遠、安、國、止、平、所、知、食、天、都、日、嗣、乃、天、都、高、御、座、仁、御、座、天、都  
御、膳、遠、長、御、膳、乃、遠、御、膳、止、千、秋、乃、五、百、秋、仁、瑞、穗、遠、平、所、知、食、天、都、事、依  
志、奉、天、降、坐、之、後、仁、中、臣、乃、遠、都、祖、天、兒、屋、根、命、皇、御、孫、尊、乃、御、前、仁、受、給、里、申、仁、皇、御、孫  
忍、雲、根、神、遠、天、乃、二、上、仁、奉、上、天、神、漏、岐、神、漏、美、命、乃、御、前、仁、受、給、里、申、仁、皇、御、孫  
尊、乃、御、膳、都、水、波、宇、津、志、國、乃、水、仁、天、都、水、遠、加、立、奉、申、事、教、給、仁、依、天、忍  
雲、根、神、天、乃、浮、雲、仁、乘、天、乃、二、上、仁、上、坐、神、漏、岐、神、漏、美、命、乃、御、前、仁、受、給、里、申、事、教、給、仁、依、天、忍

乃、玉、櫛、遠、事、依、奉、此、玉、櫛、遠、刺、立、自、夕、日、朝、日、照、天、都、詔、乃、太、詔、乃、言  
遠、以、告、禮、如、此、告、波、麻、知、波、弱、菲、仁、由、都、五、百、篁、生、出、年、自、其、下、天、乃、八、井、出、車  
此、遠、持、天、都、水、止、所、聞、食、止、事、依、奉、支、如、此、依、奉、志、任、任、仁、所、聞、食、由、庭、乃、瑞、穗  
遠、四、國、ト、部、等、大、地、仁、ト、事、遠、持、三、奉、仕、留、悠、紀、仁、近、江、國、野、洲、主、基、仁、丹、波、國、水  
上、遠、齋、定、物、部、人、等、酒、造、兒、酒、波、粉、走、灰、燒、薪、採、相、作、稻、實、公、等、大、嘗、會、乃、齋、場  
仁、持、齋、利、參、來、三、今、年、十、一、月、中、都、卯、日、仁、由、志、理、伊、都、志、理、持、恐、美、清、麻、波  
利、仁、奉、任、利、月、内、仁、日、時、遠、撰、定、此、獻、留、悠、紀、主、基、乃、黑、木、白、木、乃、大、御、酒、遠、大、倭  
根、子、天、皇、我、天、都、御、膳、乃、長、御、膳、乃、遠、御、膳、止、汁、仁、實、赤、丹、乃、總、所、聞、食、仁、豐  
明、仁、明、御、坐、天、都、詔、乃、稱、辭、定、奉、留、皇、神、等、千、秋、五、百、秋、乃、相、嘗、仁、相、宇、豆  
北、乃、奉、利、堅、磐、常、磐、仁、齋、奉、利、伊、賀、志、御、世、仁、榮、如、志、奉、利、自、康、治、元、年、始、與、天、地、日  
日、共、照、志、明、御、坐、事、仁、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、奉、仕、留、中、臣、祭、主、正、四、位、上  
行、神、祇、大、副、大、中、臣、朝、臣、清、親、壽、詞、遠、稱、辭、定、奉、申、又、申、久、天、皇、朝、廷、仁、奉、仕、留  
親、王、等、王、等、諸、臣、百、官、人、等、天、下、四、方、國、乃、百、姓、諸、々、集、侍、見、食、倍、尊、食、倍、歡、食  
倍、聞、食、倍、天、皇、朝、廷、仁、茂、世、仁、八、桑、枝、乃、立、榮、奉、仕、留、倍、禱、中、恐、申、給、波、久、申、此  
文、ハ、と、長、く、標、注、小、記、さ、む、ハ、心、か、の、業、か、れ、ど、中、臣、の、壽、詞、の、因、ハ、引、出、つ、○忌  
部、宿、祢、色、夫、知、天、武、紀、小、色、弗、小、作、也、即、忌、部、宿、祢、首、の、弟、あり、續、紀、二、五、正、五、位  
上、忌、部、宿、祢、色、布、知、卒、詔、贈、從、四、位、上、○奉、上、神、璽、鏡、按、小、神、璽、ミ、シ、ル、シ、と  
よ、み、て、鏡、鏡、小、附、稱、ろ、の、み、神、祇、令、小、忌、部、上、神、璽、之、鏡、鏡、義、解、小、以、鏡、鏡、稱、璽



と之、字を加て、其意を去らしをとり、然し西田直養が、神璽考と云書を作て、神璽を曲玉として、之、字ハ及の誤と云、るハ、いみじき僻説あり、大嘗祭式ハ、車駕臨豊樂院、神祇官、中臣執賢木、副笏、跪奏、天神之壽辭、忌部入奏、神璽之鏡、劔とあり、今按、即位の大禮ハ、三種おがら上し、此ハ鏡、劔とのみあり、略たるなり、北山抄大嘗會の裏書ハ、近例左右次將各一人、執璽、劔、候前後と見とるふど、ハ、璽、劔の二種あり、かゝる例引、違ふハ、皇太后即天皇位、原本、后、字を脱せり、扱上、小見をとり、如く、先帝崩、坐て、既、五年を經て、此ハ始、て即位の禮を行ひ、降へるハ、草壁、皇子の帝位ハ、坐しと成、隠、たるにて、如此、史ハ、洩せるハ、深き故、あるとふるべし、○拍手、臨時祭式、賜、出雲、国、造、負、幸、物、條、ハ、国、造、稱唯、再、拜、兩、段、拍、手、兩、段、土、佐、風、土、記、ハ、天、皇、至、來、目、川、群、臣、各、脱、衣、服、而、獻、神、拍、手云々、神、と、ハ、一、言、主、神、ハ、一、言、主、大、神、手、打、受、其、捧、物、云々、按、小、手、を、拍、ハ、皇、國、の、古、禮、にて、其、式、神、事、ハ、遺、是、る、と、禮、儀、略、ハ、委、記、せ、る、が、如、し、  
 己卯二日 ○丹  
 比嶋真人、續紀  
 二、左大臣正  
 二、位多治比真  
 人嶋薨、宣化、天  
 皇之玄孫、多治

己卯公卿百寮拜朝如元會儀丹  
 比嶋真人與布勢御主人朝臣奏  
 賀騰極庚辰宴公卿於内裏甲申

比王之子也 ○  
 庚辰三日 ○甲  
 申七日 ○壬辰  
 十五日 ○甲午  
 十七日 ○篤癘  
 せ、アツエビト  
 とよめる義ハ、  
 知らざれども、  
 姑、原訓ハ、  
 ぐふ ○蠲服、職  
 員令民部省、優  
 復蠲免の義解  
 小、賦役令、應免  
 課役者、皆待蠲  
 符、至、然後、注免、とあり、然、ハ、服、を、復、ふるべし、○丁酉廿日 ○解部、職員令、刑部省  
 小、大、解部、十人、掌門、窮、争、訟、中、解部、二十人、少、解部、三十人、類、聚、国、史、百七、大同三  
 年、正月、詔、刑部、解部、互、從、省、廢、○庚子  
 廿三日 ○神戸、田地、神、功、紀、ハ、注、せり

○日本紀標注卷之二十六  
 ○ 二十二

宴公卿於内裏仍賜衣裳壬辰百  
 寮進薪甲午大赦天下唯常赦所  
 不免不在赦例賜有位人爵一級  
 蠲寡孤獨篤癘貧不能自存者賜  
 稻蠲服調役丁酉以解部一百人  
 拜刑部省庚子班幣於畿内天神  
 地祇及增神戸田地



壬子五日 ○ 腋  
上 腋ハ、大和国  
葛上郡子て、推  
古紀子注せり  
○ 戊午十一日  
○ 甲子十七日  
○ 丙寅十九日  
○ 壬申廿五日  
○ 丙申廿日 ○  
嶋宮上子注せ  
○ 己酉三日  
○ 癸丑七日 ○  
耆老耆女、戸令  
ふ、六十一為老  
六十六、為耆、禮  
曲禮子、六十曰  
耆七十、曰老 ○  
庚申十四日 ○

二月戊申朔壬子、天皇幸于腋上  
腋、觀公卿大夫之馬、戊午、新羅沙  
門詮吉、級喰北助知等、五十人歸  
化、甲子、天皇幸吉野宮、丙寅、設齋  
於内裡、壬申、以歸化新羅、韓奈未  
許滿等十二人、居于武藏國、三月  
丁丑朔丙申、賜京與畿内、人年八  
十以上者、嶋宮、稻人二十束、其有  
位者、加賜布二端、夏四月丁未朔

上日、續紀二子、  
王臣五位已上、  
上日、本司月終、  
移式部、北山抄  
正月、條子、每月  
一日、奏去月、上  
日、即勤仕、日々  
云、○選定九等  
考課令子、凡内  
外文武、官初位  
以上、毎年當司  
長官、考其属官  
應考者、皆具録  
一年、功過行能、  
並集對讀、議其優劣、定九等、第八月三十日以前、校定云々、選叙令子、凡初位以上  
長上、官選代、皆以六考為限、中、進、一階叙、每三考中上及二考上下並一考上中  
各亦進一階叙、○考仕令ハ、清御原朝の令の篇目子て、考課令子おふじ、○善最  
ハ、考課令の、最條子見せり、○氏姓大小ハ、氏の賤ハ内位子叙、加九一、故、氏の

己酉、遣使祭廣瀨大忌神、與龍田  
風神、癸丑、賜京與畿内、耆老耆女、  
五千三十一人、稻人二十束、庚申、  
詔曰、百官人及畿内人、有位者、限  
六年、無位者、限七年、以其上日選  
定九等、四等以上者、依考仕令、以  
其善最功能、氏姓大小、量授冠位、



貴賤を大小と  
云て○朝服  
を參朝の服  
と朝服と  
並記せり○  
紫衣服令み  
深紫に作  
赤紫按み  
の淺い赤  
れバ、ウス  
サキとよむ  
し、衣服令  
紫み作れ  
一富り、一  
通つり、和  
み、幅布絹  
闊狭也、俗  
訓能

其朝服者、淨大壹已下廣貳已上、  
黒紫、淨大參已下廣肆已上、赤紫、  
正八級、赤紫、直八級、緋、勤八級、深  
緑、務八級、淺緑、追八級、深縹、進八  
級、淺縹、別淨廣貳已上、一富一部  
之綾羅等、種種聽用、淨大參已下、  
直廣肆已上、一富二部之綾羅等、  
種種聽用、上下通用、綺帶白袴、其  
餘者如常、戊辰始祈雨於所所旱

堀川院百首  
ぬぎかけし、主  
も誰ともあらぬども、一幅みたる、藤袴の  
の晴せぬ頃ハ、引きらび、滝のあらぬの、幾幅そ  
と云、上ツボとと見る意ハ、未考えず○綺帶、和名抄  
無波太と何、字書みハ、クミとよめ、原本綺、字上下  
解み改、たるみ從ふ○白袴衣服令み、一品以下五位  
腰帶見、續紀二、漆冠、綺帶、白鞆、黒革鳥、其袴者直冠  
以下者白脛裳  
○戊辰廿二日  
○戊寅三日  
乙酉十日  
寅十五日  
居天武紀注  
日○庚午廿五日  
日○戊寅三日  
○庚辰五日

也  
五月丙子朔、戊寅、天皇幸吉野宮、  
乙酉、百濟男女二十一人歸化、庚  
寅、於内裏始安居講説、六月丙午  
朔、辛亥、天皇幸泊瀬、庚午、盡召有  
位者、唱知位次、與年齒、秋七月丙



丹比真人ハ、嶋  
子、十年十月、  
條子、賜與杖、以  
哀致事、又賜資  
人一百二十人  
とあり、遷任、  
原本遷を還に  
作り、今一本  
み従ふ、○辛巳  
六日、○壬午七  
日、○開門以前、  
下、原本ハ蓋昔  
者到宮門而著  
朝服乎の十一  
字あり、後人の  
換入、炳々れば  
削る、○甲申九  
日、○見親王儀  
子朔、公卿百寮、人等、始著新朝服、  
戊寅、班幣於天神地祇、庚辰、以皇  
子高市、爲太政大臣、以正廣參授  
丹比真人、爲右大臣、并八省百寮  
皆遷任焉、辛巳、大宰國司皆遷任  
焉、壬午、詔令公卿百寮凡有位者、  
自今以後、於家内著朝服而參上  
未開門以前、甲申、詔曰、凡朝堂座  
上、見親王者、如常、大臣與王起立、

制令ハ、凡在廳  
座上、見親王及  
太政大臣下座、  
左右大臣當司、  
長官、即動坐、  
如常ハ、諸臣親  
王を見バ、常禮  
の如くせむと  
あり、○巳丑十  
四日、○七寺、何  
を指せるり  
詳からず、拾芥  
抄下學集等ハ、  
見とたる七寺  
ハ、奈良朝の定  
まらば用む、○  
癸巳十八日、○  
戊申四日、○乙  
居于下毛野國、九月乙亥朔、詔諸  
九、癸巳、遣使者祭廣瀨、大忌神、與  
龍田風神、八月乙巳朔、戊申、天皇  
幸吉野宮、乙卯、以歸化新羅人等  
奉施於三寺、安居沙門、三百二十  
門、三千三百六十三、別爲皇太子、  
日以絶絲綿布、奉施七寺、安居沙  
曰朝堂座上、見大臣動坐而跪、是  
堂前二王以上、下座而跪、己丑、詔



卯十一日○諸國司、原本司を  
 補り集解ふ  
 乙酉十一日○  
 京師、原本京を  
 貢ふ誤り、今  
 類聚国史、小摺  
 る○口賦、かり  
 ると此より外  
 小見、漢書昭  
 帝紀、小母收、四  
 年五年、口賦、注  
 小民年七歲、至  
 十四歲、出口賦  
 錢、人二十三錢  
 云々、是ら、を真似、びし、みや○丁亥十三日○丁酉廿三日○上陽、咩郡、景行紀、小  
 到、八女縣、名曰、八女、津媛、常居、山中、故、八女、国、之名、由、此起、也、和名抄、筑後、国、郡、名、

國司等曰、凡造戶籍者、依戶令也、  
 乙酉、詔曰、朕將巡行紀伊之故、勿  
 收今年京師田租口賦、丁亥、天皇  
 幸紀伊、丁酉、唐國學問僧智宗義  
 德淨願、軍丁筑紫國上陽咩郡大  
 伴部博麻呂、從新羅送使大奈末  
 金高訓等、還至筑紫、戊戌、天皇至  
 自紀伊

上妻加牟豆萬と何？○大伴部博麻呂、舊事紀景行天皇の皇子等を記せる條  
 小、倭宿祢命、三川、大伴部、直祖、と見と、り、原本博麻呂の呂を脱、ちり、類聚国史  
 に據、て補ふ○  
 戊戌廿四日○  
 戊申五日○癸  
 丑十日○戊午  
 十五日○土師  
 宿祢甥、續紀四  
 小、授、從五位下  
 ○乙丑廿二日  
 ○筑紫國、類聚  
 国史、小、筑後國  
 小、作、り、○博  
 麻呂、原本呂を  
 曰、小、作、り、今  
 類聚国史、小、摺  
 る○天豐財云  
 々、齊明天皇を

冬十月甲辰朔、戊申、天皇幸吉野、  
 宮、癸丑、唐國學問僧智宗等至于  
 京師、戊午、遣使者、詔筑紫大宰河  
 内王等曰、饗新羅送使大奈末金  
 高訓等、准上送學生土師宿禰甥  
 等、送使之例、其慰勞賜物、一依詔  
 書、乙丑、詔軍丁筑紫國上陽咩郡  
 人、大伴部博麻呂、於天豐財重日



申○氷連老、孝  
德紀、氷連老  
人、真玉之子と  
いへ、老ハ其子  
ふや○元實兒  
の實、一本及類  
聚国史、實に  
作れり○達を  
トヅクとよえ  
るハ、届とおお  
じく古言なり、  
重之集ふ、その  
原や、ふせやに  
とづく、かけを  
しも、誰やふふ  
かえ、我ハ渡し  
人、次に得通、天  
朝、とも何で○

足姫、天皇、七年、救百濟之役、汝為  
唐軍、見虜、泊天命開別、天皇、三年、  
土師、連、富、杼、氷、連、老、筑紫、君、薩夜  
麻、弓、削、連、元、實、兒、四人、思欲、奏聞  
唐人、所計、縁、無衣、糧、憂、不能、達、於  
是、博、麻、呂、謂、土師、富、杼、等、曰、我、欲  
共、汝、還、向、本、朝、縁、無、衣、糧、俱、不、能  
去、願、賣、我、身、以、充、衣、食、富、杼、等、任  
博、麻、呂、計、得、通、天、朝、汝、獨、淹、滯、他

及至曾孫、和名  
抄、孫之子、為  
曾孫、比々古、田  
今、凡、功、田、大  
功、世々、不、絶、上  
功、傳、三世、中、功、  
傳、二世、下、功、傳  
子、祿、今、小、大、功、  
減、半、傳、三世、上  
功、減、三分、之二  
傳、二世、中、功、減  
四分、之三、傳、子、  
下、功、不、傳、○課、役、賦、役、令、不、損、八、分、以上、課、役、俱、免、義、解、不、課、者、調、及、副、物、田、租、之  
類、也、役、者、庸、及、雜、徭、之、類、○壬、申、廿、九、日、○藤、原、宮、地、大、和、志、小、在、高、市、郡、大、原、村、  
○庚、辰、七、日、○  
甲、申、十、一、日、○  
元、嘉、曆、三、代、賞  
錄、五、子、領、行、長

界、於、今、三、十、年、矣、朕、嘉、厥、尊、朝、愛  
國、賣、已、顯、忠、故、賜、勢、大、肆、并、純、五  
匹、縣、一、十、屯、布、三、十、端、稻、一、千、束  
水、田、四、町、其、水、田、及、至、曾、孫、也、免  
三、族、課、役、以、顯、其、功、壬、申、高、市、皇  
子、觀、藤、原、宮、地、公、卿、百、寮、從、焉  
十一月、甲、戌、朔、庚、辰、賞、賜、送、使、金  
高、訓、等、各、有、差、甲、申、奉、勅、始、行、元



慶宣明曆經先  
是陰陽頭從五  
位下兼行曆博  
士大春日朝臣  
真野麻呂奏言  
謹檢豐御食炊  
屋姬天皇十年  
十月百濟國僧  
觀勒始貢曆術  
而未行於世高  
天原廣野姬天  
皇四年十二月  
有勅始用元嘉曆次用儀鳳曆高野姬天皇天平寶字七年八月停儀鳳曆用開元  
太衍曆云々宋書文帝紀元嘉二十二年春正月改用御史中丞何承天元嘉曆  
南史齊紀不改元嘉曆為建元曆祖以正月卯臘以十二月末唐書曆志宋文帝  
時何承天上元嘉曆云々同藝文志何承天宋元嘉曆二卷と有り此何承天と  
云人ハ宋書六十四南史三十三傳有り○儀鳳曆續紀二十四小廢儀鳳曆始  
用大衍曆按儀鳳とハ唐の高宗の年号して彼時不行とれハ麟德曆

嘉曆與儀鳳曆十二月癸卯朔乙  
巳送使金高訓等罷歸甲寅天皇  
辛吉野宮丙辰天皇至自吉野宮  
辛酉天皇幸藤原觀宮地公卿百  
寮皆從焉乙丑賞賜公卿以下各  
有差

ありんむ唐六典麟德曆麟德中太史令李淳所造と記唐書藝文志小然見  
色て麟德と儀鳳とハ總十年の隔なり○乙巳三日○甲寅十二日○丙辰十四  
日○辛酉十九日  
○乙丑二十三日  
内親王官位訓  
帝の御姉妹  
ふらびひ皇女  
の親王宣下を  
蒙らせ給ふは  
内親王と稱し  
奉るなり御免  
あき方ハたと  
ハバ女一宮女  
二宮ふと申  
云々御免あきとハ内親王の宣下あき云々北山抄賜内親王女御位記條ハ其  
位記置柳菅到彼第先令達事由進藤前奉之○女王ハ諸王小對て意ハおなじ  
○位西宮記北山抄等正月條ハ女叙位して今年より始るにや○公卿原本  
公をハハ作りハ省卿ふやと思と姑通證不改たるに從ふ○金禪廣原本金

五年春正月癸酉朔賜親王諸臣  
内親王女王内命婦等位已卯賜  
公卿飲食衣裳優賜正廣肆百濟  
王金禪廣直大肆遠寶良虞與南  
典各有差







日、設齋食、菜果  
 ○甲戌三日○  
 丙子五日○癸  
 己廿二日○見  
 貴者從良、上代  
 之人を賣買せ  
 しと、戸令み見  
 せり、良民み  
 して、兄のたせ  
 に賣らるゝも  
 のへ、良民あり  
 とぞ○見賣者  
 從賤、按み父母  
 のために、賣る  
 るのた、良民  
 たると能くば  
 とあり、是ハ臨時、み宣、出給ふみて、淨御原令の文み、のらし○所生亦皆從良  
 戸令み几官戸、陵戸家人、公私、奴婢與良人、為夫妻、所生男女、不知情者、從良皆離

月六齋、天皇時、時遣大舍人問訊、  
 朕世亦如之、故當勤心奉佛法也、  
 是日授官人位記、三月壬申朔甲  
 戌、宴公卿於西廳、丙子、天皇觀公  
 私馬於御苑、癸己、詔曰、若有百姓、  
 弟為兄、見賣者從良、若子為父母、  
 見賣者從賤、若准貸倍沒賤者從  
 良、其子雖配奴婢、所生亦皆從良

之其逃亡、所生、  
 男女皆從賤○  
 氏祖ハ先祖と  
 云、ガ如し○大  
 學博士、職員令  
 一人、掌教、授經  
 業課、試學生○  
 上村主、天武紀  
 み見せり○  
 辛亥十一日○  
 丙辰十六日○  
 壬戌廿二日○  
 辛卯廿一日○  
 六月、爰み支干  
 を脱せり、甲子  
 を加補、べし○  
 雨水、原本氷を

夏四月辛丑朔、詔曰、若氏祖時、所  
 免奴婢、既除籍者、其眷族等、不得  
 更訟言、我奴婢、賜大學博士上村  
 主百濟、大稅一千束、以勸其學業  
 也、辛亥、遣使者祭廣瀨大忌神、與  
 龍田、風神、丙辰、天皇幸吉野宮、壬  
 戌、天皇至自吉野宮、五月辛未朔  
 辛卯、褒美百濟、淳武、微子、壬申年、  
 賜直大參、仍賜絶布、六月京師



水小誤れ也、神武紀云、天陰而雨、水皇極紀云、風雷雨水、○戊申九日、原本申を子小誤まり、○己未十九日、○壬申三日、○御馬山、和名杵小、同郡、郷名三間、美萬、○三斤八兩、雜令小、權衡、二十四銖、為兩、十六兩為斤、義解小、謂以、拒黍、中者百黍、重為銖、云々、○銚、釋紀小、私記曰、

及郡國、四十雨、冰、戊申、詔曰、此夏陰雨過節、懼必傷稼、夕惕、迨朝、憂懼、思一念、厥愆、其令公卿百寮人等、禁斷酒、寘攝心、悔過、京及畿内、諸寺、梵衆、亦當五日誦經、庶有補焉、自四月雨、至于是月、己未、大赦、天下、但盜賊不在赦例、秋七月庚午朔壬申、天皇幸吉野宮、是日伊豫國司、田中朝臣法麻呂等獻宇和

師說未練白銀也、と云、然、注者、此銚、小、然、

郡、御馬山、白銀三斤八兩、銚一籠、

御小改、つと、子鏡集難字記、

丙子、宴公卿、仍賜朝服、辛巳、天皇至、自吉野、甲申、遣使者祭廣瀨大

代、廣金小銚字、書しとをあるべし、○

丙子、七月、○辛巳、十二月、○甲申、十五日、

癸卯、五日、原本、癸卯、觀射の四、字を脱せり、類聚、因史七十二、射禮、部小、掇、て、補ふ、○辛亥、十、三日、○阿曇、下、原本、伊、字、有、る、

八月、己亥朔、癸卯、觀射、辛亥、詔、十、八、氏、大三輪、雀部、石上、藤原、石川、巨勢、膳部、春日、上毛、野、大伴、阿倍、佐伯、米女、穗、上、進、其、祖、等、阿曇、平、羣、羽、田、墓記、辛酉、遣使者祭龍田風神、信



て行き、バ削  
る、按小十八氏  
濃須波水内等神

○大宇小書、べし○纂記を、釋紀小纂記小作り、字書小纂集也と注せり、諸家の系譜小や○辛酉廿三日○須波を、信濃国の郡名諏訪小て、式に同郡南方刀美神社○水内も同国の郡名小て、式

小同郡健御名方雷命彦神別神社  
壬申四月○音  
博士、職員令大  
學寮小、音博士  
二人、掌教音、續

紀三十五小、晋  
卿、唐人也、天平  
七年隨我朝使  
歸朝時、年十八  
九、學得文選爾

雅音、為大學音  
博士、大學式小、凡試、年分度者、遣音博士一人、就僧綱、所試漢音とあり、佛經を原漢音によむべき例、然、小漢吳の音質を志らざるもの、杜撰の説を吐き、其

彌大目、并賜購物  
川嶋薨、辛卯、以直大貳、贈佐伯宿

由音韵啓蒙論、上代を字音を嚴ふせし、ゆゑ音博士を置し、後世博士のく、支那物識ら、東當塔も同音小よみとや、誇り小物云、而へるハ、愧ざる小あらざや○書博士、職員令大學寮に、書博士二人、掌教書○丁丑九日○皇子川嶋ハ天智紀小注せり、懷風藻小、皇子者淡海帝之第二子也、志懷温裕、局量弘雅、始與大津皇子為莫逆之契、及津謀逆、嶋則告變、朝廷嘉其忠正、朋友薄其戈情、議者未詳、厚薄、然余以為忘私好而奉公者、忠臣之雅事、背君親而厚交者、悖德之流耳、但未盡、爭友之益而、陷其塗炭者、余亦疑之、位終于淨大參、時年

批五○辛卯廿三日○佐伯宿祢大目ハ、天武紀小見込たり  
乙巳八日○陵  
戸、喪葬令小、凡

先皇、陵、置、陵、戸  
令、守、非、陵、戸、令  
守者、十年一替、

扱、陵、戸、を、置、後  
ひしとの、早、見  
迄たるハ、天書

神武天皇、條、小  
十二年夏六月、

庚戌、畿内及諸國、置長生地各一

足、以、百姓、充、免、其、徭、役、三年一替、

餘、王、等、有、功、者、置、三、戸、若、陵、戸、不

曰、凡、先、皇、陵、戸、者、置、五、戸、以、上、自



行幸于日州、拜  
 皇祖皇考等陵、  
 令守護之、功  
 守戸を云、仁德  
 紀小由白鳥、陵  
 守見ゆ、○庚戌十三日、○長生、釋紀小兼方案之、令禁斷殺生之所也、○丁  
 己廿日、○甲子廿七日、○新益、詳ふらば、釋紀小兼方案之藤原宮地也  
 辛卯廿四日、原  
 本朔辛卯の三  
 字を脱せり、例  
 乙未廿八日  
 ○壬辰廿五日  
 ○丁酉晦日、○  
 長上、假寧令小  
 凡文武官長上  
 者、父母在畿外  
 十步、是日天皇幸吉野宮、丁巳、天  
 皇至自吉野、甲子、遣使者鎮祭新  
 益京  
 十一月戊辰朔辛卯、大嘗神祇伯  
 中臣朝臣大嶋讀天神壽詞、壬辰、  
 賜公卿衾、乙未、饗公卿以下至主  
 典、并賜絹等各有差、丁酉、饗神祇  
 官長上以下、至神部等及供奉播  
 者、父母在畿外

三年一給定省  
 三十日云々、按  
 小長上ハ、俗小  
 常誥と云、以  
 左ハ、○神部、職員令神  
 祇官小、神部三十人  
 已亥二日、○醫  
 博士、職員令典  
 藥寮小、醫博士  
 一人、掌諸藥方  
 脉經、教授醫生  
 等、○咒禁博士、  
 職員令典藥寮  
 小、咒禁博士一  
 人、掌教咒禁生、  
 敏達紀小、百濟  
 國王獻咒禁師、  
 造佛工云々、是  
 磨國、因幡國、郡、司以下、至百姓男  
 女、并賜絹等各有差、  
 十二月戊戌朔己亥、賜醫博士務  
 大參德自珍、咒禁博士木素、丁武、  
 沙宅萬首、銀人二十兩、乙巳、詔曰  
 賜右大臣宅地四町、直廣貳以上、  
 二町、大參以下一町、勤以下至無  
 位、隨其戸口、其上戸一町、中戸半



てゆじふひ師  
を云○乙己八  
町、下戸四分  
之一、王等亦准此  
日○大参り、直大参の略○戸口ハ戸人ヘヒトノて、其家ノ人数を云○上戸、賦役令小、  
国司皆須、知貧富強弱、因對戸口即作九等、足薄預、為次第、依次赴役、是ハ上々戸  
以下下々戸以  
上を云○庚午  
四日○癸酉七  
日○戊寅十二  
日○壬午十六  
日○癸己廿七  
日○高宮ハ、大  
和国葛上郡○  
甲午廿八日○  
至下、原本自字  
を脱せり、集解  
不補、る不從ふ  
○丁未十一日  
○陰陽博士、職

町、下戸四分  
之一、王等亦准此  
六年春正月、丁卯朔庚午、増封皇  
子高市二千戸、通前五千戸、癸酉、  
饗公卿等、仍賜衣裳、戊寅、天皇觀  
新益、京路、壬午、饗公卿以下至初  
位以上、癸己、天皇幸高宮、甲午、天  
皇至自高宮、二月丁酉朔、丁未、詔  
諸官曰、當以三月三日、將幸伊勢

買今陰陽寮、  
陰陽博士一人、  
掌教陰陽生等  
原本上、賜字  
を脱せり、類聚  
国史、小據、て補  
ふ○乙卯十九  
日○中納言、和  
名抄、不、奈加乃  
毛乃萬字須豆  
加佐、續紀、二大  
寶元年三月、條  
時、  
直言、諫爭、天皇、欲幸伊勢、妨於農  
大貳、三輪、朝臣高市麻呂、上表、敢  
詔刑部省、赦輕繫、是日中納言直  
沙門法藏、道基、銀人、二十兩、乙卯、  
宜知此意、備諸衣物、賜陰陽博士  
買今陰陽寮、  
陰陽博士一人、  
掌教陰陽生等  
原本上、賜字  
を脱せり、類聚  
国史、小據、て補  
ふ○乙卯十九  
日○中納言、和  
名抄、不、奈加乃  
毛乃萬字須豆  
加佐、續紀、二大  
寶元年三月、條  
時、  
直言、諫爭、天皇、欲幸伊勢、妨於農  
大貳、三輪、朝臣高市麻呂、上表、敢  
詔刑部省、赦輕繫、是日中納言直  
沙門法藏、道基、銀人、二十兩、乙卯、  
宜知此意、備諸衣物、賜陰陽博士

小罷、中納言、官、同三慶雲二年四月、條、不、以正四位下粟田朝臣真人、高向朝臣麻  
呂、從四位上阿倍朝臣宿奈麻呂三人、為中納言、同廿三天平寶字五年二月、條、  
勅中納言、准格、正四位上、此則職掌既重、季祿尚少、自今以後、宜改為  
從三位、官○直言諫爭、職員令小、侍從八人、掌常侍規諫拾遺補闕  
戊辰、三日○留  
守官、太政官式



凡行幸應經  
旬者云々有勅  
付留守官云々  
猶齊明紀不注  
せり○脱其冠  
位、懷風藻、藤  
原朝臣萬呂、  
過神納言、墟詩  
小、一旦辭榮去、  
十年奉諫、餘、松  
竹含春彩、容暉  
寂、蕭墟、清夜琴  
樽罷、傾門車馬、  
不此等公の第四子なり、本小萬里と有、○辛未六月、  
壬午十七日○  
神郡、神宮雜例  
集、磯邊、以東  
定奉神國、飯野

王、直廣參當麻、真人智德、直廣肆  
紀、朝臣弓張等、為留守官、於是中  
納言三輪、朝臣高市麻呂、脱其冠  
位、擊上於朝、重諫曰、農作之節、車  
駕未可以動、辛未、天皇不從諫、遂  
幸伊勢、  
壬午、賜所過神郡、及伊賀伊勢志  
摩、國造等、冠位、并免今年調役、復

多氣度相評也  
云々○志摩此  
國名爰中、と  
めて見をたり、  
地形海中、小突  
出、嶋ふせれ  
と号、め、國造  
本紀、伊勢と  
尾張と、小間、  
嶋津國造見ゆ、  
如此も云しに  
や○荷丁ハ、役  
丁軍丁准て志  
るべし、壯夫ハ  
國の強壯ある  
由、名づく為  
尹千首、みつ  
ぎ物、のぼるよ

免供奉騎士、諸司、荷丁、造行宮、丁、  
今年、調役、大赦、天下、但盜賊不在  
赦、例、甲申、賜所過志摩百姓男女、  
年八十以上、稻人五十束、乙酉、車  
駕還宮、每到行、輒會郡縣吏民、務  
勞賜作樂、甲午、詔免近江美濃尾  
張參河遠江等國、供奉騎士、戶、及  
諸國、荷丁、造行宮、丁、今年、調役、詔  
令賜天下、百姓困乏窮者、稻男三



ほろのいさむ  
おも、国もたか

東女二束

ふる程や見ゆらむ、此荷丁を拾玉集清輔集等も、もちぶとよき久、即持夫と訛、  
云、○甲申十九日○乙酉廿日○還宮、按ふ辛未より乙酉に至り、終十五日程  
おして、志摩国をさへ巡りて還宮ふハ、甚速おらばや○  
甲午晦日○三束、原本二束不作より、今一本不従ふ

丁酉二日○庚  
子五日○四畿  
内ハ、和泉国未  
一國ふ立、ざり

し時を云○甲  
寅十九日○丙  
辰廿一日○欽  
和名抄ふ、整、久  
波と注し、鋤、須  
岐と注せし、鋤  
も鋤も共ふ農  
具ふて、其形少

友國、直大貳、并賜賻物、庚子、除四、  
畿内、百姓、爲荷丁者、今年、調役、甲  
寅遣使者祀廣瀨大忌神、與龍田

風神丙辰、賜有位親王以下、至進  
廣肆難波大藏、各、有差、庚申、詔

異かるゆゑ、欽  
字をスキとも

クハとも、ゆをり、根官人小欽を賜るハ、此時より始とマ○庚  
申廿五日○見徒、原本徒、字を脱せり、集解ふ加たるに從ふ

庚午六日○阿  
胡ハ志摩国の  
郡名ふて、和名  
抄ふ英虞小作  
とり、按ふ是ハ  
三月ふ、行幸お

了、時のとを、  
記せるおて、此  
行幸の時の歌、  
万葉一、五首  
見込て、鳴呼兒  
乃浦とも、手節  
乃崎とも、五十  
良兒、嶋とも、よ

日凡繫囚見徒、一皆原散

五月乙丑朔庚午、御阿胡行宮、時

進贄者、紀伊國牟婁郡人、阿古志、

海部、河瀨麻呂等兄弟三戸、服十

年、調役雜徭、復免挾抄八人、今年、

調役、辛未、相摸國、司獻赤鳥、離二

隻、言獲於御浦郡、丙子、幸吉野宮、

庚辰、車駕還宮、辛巳、遣大夫謁者、



志摩國に御駐  
 老る哉思ふ  
 志摩國に御駐  
 輦ありしを、お  
 もふべし次子  
 挾抄等を賞し  
 珍ひし也、此時  
 のとあり○牟  
 婁郡へ、志摩國  
 小隣れり○阿  
 古志ハ牟婁郡  
 の地名なり○海部ハ、海人の意み見るべし○服ハ、復みれおし○挾抄景行紀  
 小見とより、和名抄に職師をよめり○辛未七日○丙子十二日○庚辰十六日  
 ○辛巳十七日○謁者仁徳紀小請謁をよみ、歌小茂能奔馬輸とあり、物申あり  
 後漢書百官志ハ、謁者比四百石、扱大夫以下請雨以上十一字ハ、後漢書順帝紀  
 の文キ、少易、より○甲申廿日○丁亥廿三日○庚寅廿六日○大倭式ハ大  
 和國山邊郡、大和坐大國魂神社○紀伊、式ハ名草郡日前神社、國懸神社  
 丁酉三日○稟  
 貸通證ハ稟、給  
 閏五月乙未朔丁酉、大水遣使修

也貸與也、と注  
 せり○戊戌四  
 日○觀成續紀  
 五ハ、觀成法師  
 為大僧都○鈔  
 粉、胡粉かるこ  
 博物志ハ見色  
 たり、醫心方に  
 粉錫とよめり  
 ○丁未十三日  
 ○赤引絲、按ハ  
 糸ハ引、出、もの  
 由、然云、マ、神  
 祇令神衣祭の  
 義解ハ、謂伊勢  
 神宮祭也、此神  
 服、部等齋戒潔  
 清、以參河、赤引  
 河内、王等曰、宜遣沙門於大隅、與  
 年當折其代、己酉、詔筑紫、大宰、率  
 其二、神郡、赤引絲參拾伍斤、於來  
 天皇曰、免伊勢國、今年調役、然輸  
 美其所造鈔粉、丁未、伊勢、太神、奏  
 觀成、絶十五匹綿、卅屯布五十端  
 畿内、講說金光明經、戊戌、賜沙門  
 行郡國、稟貸灾害、不能自存者、令  
 得漁採山林池澤、詔令京師及四、



神調糸、織作神衣、儀式帳、多氣度會二箇、神郡所進明、或御調、糸云々、○折其代ハ、分析、折て、今年の調役の數不足、赤絲を以て折償むとあり、神の人其欺、殆どざる申も畏し、○己酉十五日、原本已を乙と誤れり、

士申九日、○長吏、漢書高帝紀、守尉長吏、注に謂縣之令長、○甲戌十一日、○甲申廿一日、○大内陵ハ、天武天皇の御陵、ふて、大和国高市郡、在、○癸

阿多、可傳佛、教、復上、送唐國、大使郭務悰、爲御、近江、大津宮、天皇、所造阿彌陀、像、

六月甲子朔壬申、勅郡國長吏、各禱名山岳、瀆、甲戌、遣大夫謁者、詣畿内、請雨、甲申、賜直下八人、官位、美其造、大内陵、時、勤而不懈、癸巳、天皇觀藤原宮地、秋七月甲午

己晦日、○秋七月、原本秋を冬、小誤まり、○乙未、二日、○十惡、唐六典、立十惡、以懲叛逆、禁淫亂、沮不孝、威不道、其一曰謀、反、二曰謀大逆、三曰謀叛、四曰惡逆、五曰不道、六曰大不敬、七曰不孝、八曰不睦、九曰不義、十曰内亂云々、名例律、記せる八處ハ、此十惡の中より、擇出

朔乙未、大赦天下、俱、惡盜賊、不在赦例、賜相摸、國司布勢、朝臣色布智等、御浦郡、少領、名、姓、與、獲、赤鳥者、鹿嶋、臣、櫛、樟、位、及、祿、服、御浦郡、三年、調役、庚子、宴公卿、壬寅、幸吉野宮、甲辰、遣使者、祀廣瀨、與龍田、辛酉、車駕還宮、是夜、熒惑、與歲星、於一步、内、乍、光、乍、没、相近、相避、四遍



九るあり○鹿嶋臣續紀十六小常陸国鹿嶋郡中臣部二十烟占部五烟賜中臣  
 鹿嶋之姓○庚子七日○壬寅九日○甲辰十一日○辛酉廿八日○癸亥天武紀  
 小見色より○歳星和名抄小歳星一名明星此問云阿加保之催馬樂明星小安  
 加保之波明星云々俗小曉の明星と云漢書天文志小歳星曰東方春木於人五  
 常仁也○乙丑  
 三日○巳卯十  
 七日○飛鳥皇  
 女ハ天智天皇  
 の御女○辛丑  
 九日○班田ハ  
 孝徳天皇大化  
 元年小見色を  
 其法ハ一國  
 一郡の人口を  
 量り田を頒て  
 作らしむ是を  
 口分田と云田  
 令小凡給口分

八月癸亥朔乙丑赦罪己卯幸飛  
 鳥皇女田莊即日還宮九月癸己  
 朔辛丑遣班田大夫等於四畿内  
 丙午神祇官奏上神寶書四卷鑰  
 九箇木印一箇癸丑伊勢國司獻  
 嘉禾二本越前國司獻白蛾戊午  
 詔曰獲白蛾於角鹿郡浦上之濱

故増封筭飯神二十戸通前

田者男二段女  
 減三分之一五  
 年以下不給其地云々扱六歳以後ハ大人並小田を受け其地小入少田多けき  
 バ寛郷と云少を狭郷と稱し狭郷の人寛郷を乞も致ハ許し頒法ト之餘れる  
 を乘田として佃らむと乞もハ一年を約又田令小凡田六年一班若以身  
 死應退田者每至班年即從收授と有り收ハ田を収むるを云授ハ新不授るを  
 云猶委班田考不記しおけきバ爰ハ云ズ○大夫ハ班田の長官不班田の  
 年毎小各官長官次官判官二人主典二人を遣其事續紀三十九延暦五年九  
 月紀不見色より○丙午十四日○神寶書世不傳えらば○木印ハ神祇官不用  
 印不て是をオシデとよむべし万代集七に神代より天のおしての動きあ  
 き去るしをたてし岩や山を金撰集小ふひらく寶の箱のおしてこそ西  
 へ行べき志るしありけと上代人と約るハ手不墨成塗を物不押して印と為  
 し由互押手トハ云々儀式大嘗祭儀小召内匠寮以木彫作其文曰悠紀所印主  
 基所印並用小篆字云々朝野群載廿二小申捺印之由其詞云其書若干枚印佐  
 須○癸丑廿一日○白蛾和名抄小蛾蠶作飛虫也和名比々流と注し新撰字鏡  
 小蛾安刺比々留と注せる如く小蝶不して夏夜燈火を消むとる小虫ふれ  
 ぶかゝる物を獻べき理あく是ハ必鶴の誤ふるべし記小誤たる例あり集  
 解小蛾微少之物非可獻者蓋蛾鶴誤耳と云云猶賦ハ雄畧紀不注せり○戊午











年中行事哥合の説もお形と、然し天武天皇三年の行なれしと云、江次第踏歌、條ふも見を、れど、紀小洩して傳へ、西宮記踏歌、條ふ、天皇服直御衣、玉卿如常、青色菊塵袍、白下襲半臂白石帶、深履綿花云々、踏歌の漿束ハ、内藏式、小詳あり、朝野群戴踏歌章曲、万春樂、我皇延祚億千齡、元正慶序年光麗、延曆休期帝化昌、百辟陪筵華幄内、千般作樂紫宸場、猶多加れど悉略

壬戌三日○己  
己十日○造京  
司ハ、藤原宮を  
造る司之○衣  
縫王、父祖詳あ  
らハ、續紀四ハ、  
彈正尹從四位  
下、衣縫、王卒○  
己丑晦日○甲  
午五日○乙未  
六日○庚子十  
一日○萬原朝  
二月庚申朔壬戌、新羅遣沙喰金  
江南、韓奈麻金陽元等、來<sup>マキテツグマス</sup>赴王喪<sup>ホリイダセル</sup>  
己己、詔造京司衣縫、王等收<sup>ホリイダセル</sup>所堀  
尸<sup>ム</sup>己丑、以<sup>レ</sup>流來新羅人、牟<sup>ム</sup>自<sup>ジ</sup>毛禮<sup>レ</sup>  
等三十七人、付<sup>サケ</sup>賜憶德等、三月庚  
寅朔、日有蝕之、甲午、賜大學博士、

臣大嶋、天武紀  
ハ、藤原朝臣大  
嶋ハ、作<sup>シ</sup>り、釋  
紀ハ、私記曰藤  
原○壬寅十三  
日○乙巳十六  
日○擬ハ、字書  
ハ、像也、比擬也  
と注せり○弁  
通續紀五ハ、弁  
通法師、為少僧  
都○神叡、續紀  
七ハ、為律師同  
八ハ、詔僧綱曰  
神叡法師、切而  
卓絶、道性夙成、  
撫翼、法林、濡鱗、  
定水、不踐、安速、  
梨粟蕪菁等、草木、以<sup>テ</sup>助<sup>ス</sup>五穀<sup>タカシ</sup>  
王、賻物、丙午、詔、令<sup>レ</sup>天下、勸<sup>シ</sup>殖<sup>シメ</sup>桑<sup>タカシ</sup>紵<sup>タカシ</sup>  
神叡等、絶綿布、各有差、又賜新羅  
大伴、宿禰子君等、及學問僧<sup>ベン</sup>弁<sup>ツウ</sup>通<sup>ツウ</sup>  
羅使、直廣肆息長、真人老、勤大貳  
天皇至、自吉野宮、乙巳、賜<sup>ツカハス</sup>擬<sup>ツカハス</sup>遣新  
直大貳萬原朝臣大嶋、賻物、壬寅、  
以<sup>テ</sup>優<sup>ハカセ</sup>儒道、乙未、幸吉野宮、庚子、賜  
勤廣貳上、村主百濟、食封三十戸、  
勤廣貳上、村主百濟、食封三十戸、



之講肆、學達三空、未、漱澄什之言河、智周二諦、由是服膺、請業者、已智實歸、兩文把  
 教者、成宗匠、同十、為少僧都、元亨釋書、釋神獻、唐國人、居元興寺、講唯識云々、  
 天平九年化、日本後紀廿一、僧勝悟、傳、法師初為尊應大德、弟子、是則芳野神獻  
 大德之入室也云々、○丙午十七日、○紘、和名抄、麻、紫、屬也、紫、和名加良無之、  
 新撰字鏡、菜、加良、牟、自注、大和本草、葉、紫、蕪、ノ、形、似、青、ク、大  
 ナリ、一根ヨリ、莖、多、生、長、シ、タルヲ、刈、テ、皮、ヲ、取、リ、亭、ト、シ、布、ト、ス、云々、是、モ、諸、國  
 小生し、出雲、シ、ラ、フ、ト、云、肥、前、シ、ロ、ホ、ト、云、佐、渡、シ、マ、ソ、ト、云、伊、豫  
 にて、カツ、ボ、ウ、ト、云、出、羽、シ、テ、生、じ、た、る、を、越、後、シ、テ、織、出、即、越、後、縮、ト、云、○  
 蕪菁、本草、和、名、醫、心、方、等、云、阿、乎、奈、ト、注、セ、リ、是、モ、カ、ブ、ラ、ノ、俗、云、天、王、寺、蕪、と  
 云、浪、華、天、王、寺、邊、シ、産、を、最、上、ト、以、扱、桑、栗、等、を、植、し、む、る、と、ハ、史、云、往、々、見、也、九  
 日、○丙子十七日、夏四月庚申朔丙子、遣大夫謁者、  
 日、○辛巳廿二日、○内藏寮、  
 和名抄、内藏、  
 寮、宇、知、乃、久、良、  
 乃、豆、加、佐、判、官、  
 寮、曰、允、萬、豆、利、  
 古、止、比、止、○大、  
 允、大、伴、男、人、坐、賊、降、位、二、階、解、見、  
 忌、神、與、龍、田、風、神、辛、巳、詔、内、藏、寮、  
 詣、諸、社、祈、雨、又、遣、使、者、祀、廣、瀨、大、  
 夏、四、月、庚、申、朔、丙、子、遣、大、夫、謁、者、  
 日、○辛、巳、廿、二、  
 日、○丙、子、十、七、  
 日、○内、藏、寮、允、  
 和、名、抄、内、藏、  
 寮、宇、知、乃、久、良、  
 乃、豆、加、佐、判、官、  
 寮、曰、允、萬、豆、利、  
 古、止、比、止、○大、

伴男、續紀三、  
 小、從五位下大、  
 伴、宿、称、男、人、為、  
 大、倭、守、同、七、小、  
 從、四、位、下、大、伴、  
 宿、称、男、人、為、長、  
 門、守、○坐、賊、原、  
 本、職、で、賊、小、作、  
 小、據、り、類、聚、国、史、  
 小、據、り、改、下、並、  
 小、か、し、○見、任、  
 小、職、原、抄、右、大、  
 臣、の、首、書、小、在、官、之、公、卿、と、記、セ、リ、○典、鑑、職、員、令、中、務、省、小、典、鑑、大、少、乃、て、掌、  
 出、納、管、鑰、按、小、鑑、ハ、字、書、小、二、十、兩、也、と、注、し、カ、ギ、の、義、ハ、見、さ、れ、ど、字、鏡、集、類、  
 聚、名、義、抄、色、葉、字、類、抄、等、に、カ、ギ、と、注、し、万、葉、九、小、不、乞、爾、鑑、左、倍、奉、ふ、と、あ、る、を、  
 思、ふ、小、古、ハ、鎗、小、通、を、し、書、々、々、古、語、拾、遺、小、内、藏、大、藏、主、鑰、藏、部、云、々、○菟、野、姓、  
 氏、録、に、宇、奴、首、百、濟、国、君、男、弥、奈、曾、富、意、弥、之、後、也、是、ハ、河、内、国、讚、良、郡、菟、野、々、々、  
 出、た、る、姓、小、其、由、天、武、紀、小、注、し、つ、○監、物、ハ、職、員、令、中、務、省、小、大、中、少、乃、り、  
 〇日本紀標注卷之二十六  
 〇四十三

任官、典鑑置始、多久、與菟野大伴、  
 亦坐賊降位一階、解見任官、監物、  
 巨勢邑治、雖物不入於己、知情令、  
 盜之故、降位二階、解見任官、然置、  
 始、多久、有勤勞於壬申年、役之故、  
 赦之、但賊者、依律徵納、



掌監察出納請進管鑰是也オロシモノツカサとよるハ、鑰ヲ固むるをオ  
ロスト云レバあり、續紀二ノ下物職とも有り○巨勢邑治、續紀二同ハ、邑治  
を祖父小作、同九ノ中納言正三位巨勢朝臣邑治薨、難波朝大臣大紫德多之  
孫中納言小錦中黑麻呂之子也、和名抄小祖父を於保知と注シ、同書石見国郡  
名、又能登国羽咋郡郷名邑知を於保知と注せる以て讀法を志るべし○  
賊者依律考課令贓賄入已義解、謂官人受所監臨物一尺以上之類也

乙未七日○癸  
卯十五日○己  
未原本六月己  
未朔己未と  
るハ行まり故  
己未の二字を  
削る○壬戌四  
日○引田朝臣  
廣目ハ齊明紀  
小阿倍引田臣  
と、何るハ注セ  
テ、續紀三ハ從

五月己丑朔、幸吉野宮、乙未、天皇  
至自吉野宮、癸卯、設無遮大會於  
内裏、六月己未朔、詔高麗沙門福  
嘉還俗、壬戌、以直廣肆、授引田朝  
臣廣目、守君、苅田、巨勢朝臣麻呂、  
葛原朝臣麻呂、巨勢朝臣多益

五位上引田朝  
臣廣目、為齋宮、  
頭兼伊勢守○  
巨勢朝臣麻呂、

須丹比真人池守紀、朝臣麻呂、七

續紀七ノ中納言從三位巨勢朝臣麻呂薨、小治、田朝小德大海之孫、飛鳥朝京職  
直大參志丹之子也○葛原朝臣麻呂ハ、上ノ中臣朝臣小作、○丹比真人  
池守、續紀七ノ賜太宰帥從三位、多治比真人池守、綾一十四匹、絹二十匹、純三十三匹  
綿三百屯、布一百端、褒善政也、同十ハ從二位大納言多治比真人池守薨、左大臣  
正二位嶋之第一子也○紀朝臣麻呂、續紀三ハ、大納言正  
三位紀朝臣麻呂薨、近江朝御史大夫正三位大人之子也

甲午七日○己  
亥十二日○辛  
丑十四日○癸  
卯十六日○甲  
戌十七日○戊  
寅廿一日○辛  
卯五日○多武  
嶺、齊明紀、小田

秋七月戊子朔、甲午、幸吉野宮、己  
亥、遣使者、祀廣瀨大忌神、與龍田、  
風神、辛丑、遣大夫謁者、詣諸社、祈  
雨、癸卯、遣大夫謁者、詣諸社、請雨、



身嶺不作きり  
○壬辰六日○  
丙申十日○  
寅十六日○  
蚊  
屋忌寸、應神紀  
香屋、臣下注  
セリ○  
戊午二  
日○  
直冠、原本  
冠て官に誤れ  
○  
巳卯廿三  
日○  
庚寅五日  
○  
壬辰七日○  
乙未十日○  
巳  
亥十四日○  
善  
往、續紀二善  
往、法師為大僧  
都○  
益須郡、和  
名抄に野州○

是日天皇至、自吉野、八月戊午朔、  
幸藤原宮地、甲戌、幸吉野宮、戊寅、  
車駕還宮、九月丁亥朔、日有蝕之、  
辛卯、幸多武嶺、壬辰、車駕還宮、丙  
申、為清御原、天皇設無遮大會、於  
內裏、繫囚悉原遣、壬寅、以直廣參、  
贈蚊屋忌寸木間、并賜賻物、以褒  
壬申年之役功、冬十月丁巳朔、戊  
午、詔自今年始、於親王、下至進位、

醴泉、和名抄に  
醴、一日一宿酒  
也、和名古佐介  
と、何に濃酒な  
治部式大瑞  
醴泉、美泉也  
其味美甘、狀如  
醴酒、續紀七卷  
老元年九月、美  
濃國當耆郡多  
度山より、美泉  
七湧せ、其事  
史に傳えらる  
九に、古書に微  
て、佚史に記し  
おきつ、論衡指  
瑞篇に、甘露時  
降萬物以嘉、謂

觀所、儲兵、淨冠、至直冠、人甲一領、  
大刀一口、弓一張、矢一具、鞞一枚、  
鞍馬、勤冠、至進冠、人、大刀一口、弓  
一張、矢一具、鞞一枚、如此預備、已  
卯、始講仁王經、於百國、四日而畢、  
十一月丙戌朔、庚寅、幸吉野宮、壬  
辰、賜耽羅王子佐平等、各有差、乙  
未、車駕還宮、己亥、遣沙門法員善  
往、真義等、試飲近江國、益須郡、醴







三、小、臺忌寸八  
 鳴、授、從五位下  
 ○鑄錢司、和  
 名抄、小、樹、漸、乃  
 司、續、紀、一、文、武  
 天皇三年、始、置  
 鑄錢司、以、直、大  
 肆、中、臣、朝、臣、意  
 美、麻、呂、為、長、官  
 其、後、往々、廢、置  
 云々、爰、始、置  
 と、何、る、ハ、文、武  
 天皇の御世、  
 始、之、類、聚、三、代  
 格、承、和、二、年、三  
 月の官符、  
 鑄錢司、秩、足、六  
 年、事、右、太、政、官

廣肆大宅、朝臣麻呂、勤大貳臺忌  
 寸八嶋、黃書、連本實等、拜鑄錢司、  
 甲午、詔、曰、凡、以、無位、人、任、郡司者、  
 以、進、廣、貳、授、大、領、以、進、大、參、授、小  
 領、已、亥、詔、曰、粵、以、七、年、歲、次、癸、己、  
 醴、泉、涌、於、近、江、國、益、須、郡、都、賀、山、  
 諸、疾、病、停、宿、益、須、寺、而、療、差、者、衆、  
 故、入、水、田、四、町、布、六、十、端、原、除、益  
 須、郡、今、年、調、役、雜、徭、國、司、頭、至、日、

去、天、長、八、年、三  
 月、五、日、下、式、部  
 省、符、傳、云々、件  
 司、速、置、周、防、赴  
 往、之、吏、不、異、國  
 司、自、今、以、後、秩  
 滿、解、任、准、國、司  
 云々、北、山、抄、申  
 大、中、納、言、雜、事  
 條、下、周、防、國

進位一階、賜其初醴泉者、葛野、  
 羽、衝、百、濟、土、羅、羅、女、人、絶、二、匹、布  
 十、端、歛、十、口、乙、己、奉、幣、於、諸、社、丙  
 午、賜、神、祇、官、頭、至、祝、部、等、一、百、六  
 十、四、人、絶、布、各、有、差

符、減、行、鑄、錢、料、雜、物、  
 べし、職、原、抄、鑄、錢、司、  
 醍、醐、天、皇、の、御、止、の、程、  
 益、須、寺、ハ、土、人、小、問、  
 事、上、抄、勘、署、文、案、檢、出、  
 六、世、孫、伊、香、我、色、乎、  
 近、江、國、小、百、濟、種、  
 神、前、郡、と、  
 ○乙、己、廿、二、日、  
 ○丙、午、廿、三、日、  
 ○神、祇、官、頭、ハ、伯、を、云、



戊午五日○河内王ハ既天武紀不見也、れど、父祖詳あらざ、紹運録長親王の男、河内王見込されど、其據を志らざ、凡河内王と申御名、四人あり、是ハ何とあらむ、万葉三ノ、河内王葬豊前国鏡山之時、手持、女王、作歌、豊国乃鏡山之石、戸立、隠爾計良思、雖待不來座、鏡山ハ同国田川郡みて、被地、此王の墓今存、り○庚申七日○丙寅十三日○丁亥十四日○庚午十七日○道光、孝徳紀み見込、り

夏四月、甲寅朔、戊午、以淨大肆、贈筑紫大宰、率河内王、并賜賻物、庚申、幸吉野宮、丙寅、遣使者、祀廣瀨、大忌神、與龍田風神、丁亥、天皇至、自吉野宮、庚午、贈律師道光賻物、御名、四人あり、是ハ何とあらむ、万葉三ノ、河内王葬豊前国鏡山之時、手持、女王、作歌、豊国乃鏡山之石、戸立、隠爾計良思、雖待不來座、鏡山ハ同国田川郡みて、被地、此王の墓今存、り○庚申七日○丙寅十三日○丁亥十四日○庚午十七日○道光、孝徳紀み見込、り

五月、癸未朔、戊子、饗公卿大夫於内裏、癸巳、以金光明經一百部、送

會と申ハ、大こくてんみて、正月八日より、十四日、迄、七日の、ひだ、最勝王、經を、か、う、せられ、朝家、を、いの、て、申、侍、るとあり、云々、最勝王、經ハ、金光明經、みて、是、を、金光明最勝王、經と稱す○上玄の玄ハ、弦の省文、和名抄、み弦、月、之、半、名、也、其、形、一、旁、曲、一、旁、直、若、張、弓、弦、也、弦、和、名、由、美、波、理、有、上、弦、下、弦、和、爾、雅、み、七、八、日、為、上、弦、廿、二、三、日、為、下、弦、書、言、故、事、み、每、月、初、八、日、為、上、玄、釋、紀、み、ハ、三、日、也、と、注、せ、る、ハ、非、あり○庚申、八、日、○更、荒、郡、ハ、讚、良、郡、を、て、欽、明、紀、み、見、込、り○白、山、鷄、和、名、抄、み、山、鷄、一、名、鷄、鷄、和、名、夜、萬、土、利、と、り、是、ハ、雉、の、大、なる、状、にて、深、山、み、多、かり、然、れ、ど、白、色、なる、ハ、め、づ、らし

置諸國、必取每年正月上玄讀之、其布施、以當國官物充之、六月癸丑朔、庚申、河内國更荒郡、獻白山鷄、賜更荒郡大領少領、位人一級、并賜物、以進廣貳、賜獲者刑部造、韓國、并賜物

○日本紀標注卷之二十六  
四十八



丙戌四日○巡  
 察使ハ、天武紀  
 不見也、  
 丁酉十五日○  
 戊辰十七日○  
 皇女飛鳥、續紀  
 一、淨廣肆明  
 日香皇女薨、天  
 智天皇之女也、  
 万葉二、明日  
 香皇女、水、麩、殯  
 宮之時、柿本朝  
 臣人麻呂の作  
 歌、  
 四日○癸卯廿  
 二日○庚午廿  
 日○白蝙蝠、和  
 名抄、編、加

秋七月癸未朔丙戌、遣巡察使於  
 諸國、丁酉、遣使者、祀廣瀨、大忌神、  
 與龍田風神、八月壬子朔戊辰、爲  
 皇女飛鳥、度沙門一百四口、九月  
 壬午朔、日有蝕之、乙酉、幸吉野宮、  
 癸卯、以淨廣肆三野王、拜筑紫大  
 宰、率、冬十月辛亥朔庚午、以進大  
 肆、賜獲白蝙蝠者、飛驒國荒城郡、  
 弟國部、弟日、并賜絶四匹綿四屯

波富利、本草和  
 名、伏翼也

布十端、其戶課役、限身、悉免

是ハ、拾玉集、加、  
 六、弟國部高繼と云、人見也、原本  
 部を郡小誤り、今一本小據る

丙午廿六日○  
 殊死、漢書高帝  
 紀、赦天下殊  
 死以下、注、殊  
 絶也、其身首離  
 絶而異處也、釋  
 紀、私記曰、案  
 漢書集義云、殊  
 決死也云々○  
 乙卯六日○藤  
 原宮、大和志、在、高市郡大原村、續紀三、始、定、藤原宮地、入、宮中、百  
 姓、一千五百、王、烟、賜、布、有、差、○戊午九日○己未十日○辛酉十二日

十一月辛巳朔丙午、赦殊死以下、  
 十二月庚戌朔乙卯、遷居藤原宮、  
 戊午、百官拜朝、己未、賜親王以下、  
 至郡司等、絶繇布、各有差、辛酉、宴  
 公卿大夫



甲申五日○丙  
 九年春正月、庚辰朔甲申、以淨廣  
 貳授皇子舍人、丙戌、饗公卿大夫、  
 於內裏、甲午、進御薪、乙未、饗百官、  
 人等、丙申、射四日而畢、閏二月己  
 卯朔丙戌、幸吉野宮、癸巳、車駕還  
 宮、三月戊申朔己酉、新羅遣王子  
 金良琳補命、薩食朴強國等、及韓  
 奈麻、金周漢、金忠仙等、奏請國政、  
 且進調獻物、己未、幸吉野宮、壬戌、  
 奈麻、原本麻也  
 琳、小作也、姓、姑、  
 所毛、同三小、薩  
 食、金、今古、同九  
 小、薩食、金、造、近  
 同十五小、薩食  
 金、序、貞、不、ど、何  
 了、金、ハ、姓、之、○  
 日、○、薩、食、ハ、匝  
 食、小、ガ、お、じ、續  
 紀、一、小、薩、食、金  
 五日○己酉二  
 八日○癸巳十  
 十七日○丙戌  
 十六日○丙申  
 十五日○乙未  
 十五日○甲午  
 戊七日○甲午

釋紀不從○  
 已未十一日○  
 壬戌十四日○  
 庚午廿二日○  
 文忌寸博勢、續  
 紀一、小、博、勢、小  
 作とり○  
 下譯語、姓氏錄下、曰、佐、漢、高、祖、男、齊、悼、惠、王、肥、之、後、也、氏、人、ハ、續、紀、ハ、  
 小、下、譯、大、足、と、云、人、向、る、の、み、○、多、祢、ハ、天、武、紀、不、注、せ、り、原、本、祢、と、弥、不、誤、れ、  
 ○丙戌九日○  
 甲午十七日○  
 賀茂朝臣蝦夷  
 ハ、天、武、紀、不、鴨、  
 君不作とり○  
 已未十三日○  
 大隅隼人、原本  
 顛倒、今、集、解、不  
 改、た、る、小、從、不  
 ○丁卯廿一日  
 天皇至自吉野、庚午、遣務廣貳文  
 忌寸博勢、進廣參下譯語諸田等、  
 於多禰、求蠻所居、  
 夏四月戊寅朔丙戌、遣使者祀廣  
 瀨大忌神、與龍田風神、甲午、以直  
 廣參、贈賀茂朝臣蝦夷、并賜賻物、  
 本位勤、以直大肆、贈文忌寸赤麻  
 大壹、呂等、并賜賻物、  
 山本位大、五月丁未



○巳卯三日○  
 壬辰十六日○  
 痼疾、戸令小癩  
 痼疾、儒腰脊一  
 支癩、如此之類  
 皆為癩疾、義解  
 謂痼疾也癩  
 於人事、故曰癩  
 疾也、字書不癩  
 久也○甲午十  
 八日○壬寅廿  
 六日○戊辰廿  
 三日○辛未十  
 六日○小野朝  
 臣毛野續紀六  
 中納言從三  
 位、兼中務卿勲  
 三等、小野朝臣  
 朔、巳未、饗大隅、隼人、丁卯、觀隼人  
 相撲、於西、槐下、六月、丁丑、朔、巳卯  
 遣大夫、謁者、詣京師、及四畿内、諸  
 社、請雨、壬辰、賞賜諸臣、年八十以  
 上、及痼疾、各有差、甲午、幸吉野宮、  
 壬寅、至自吉野、秋七月、丙午、朔、戊  
 辰、遣使者、祀廣瀨大忌神、與龍田、  
 風神、辛未、賜擬遣新羅使、直廣肆  
 小野朝臣毛野、務大貳伊吉、連博

毛野薨、小治田  
 朝大德冠妹子  
 之孫、小錦中毛  
 人之子也○巳  
 亥廿四日○乙  
 巳晦日○戊申  
 四日○庚戌六  
 日○乙酉十一  
 日○菟田吉隱  
 八、大和国の郡  
 名字院、小吉  
 隱、八、万葉二、小  
 吉隱之、儲養乃  
 岡と、今、今城  
 上郡、小属、同  
 郡吉隱村、石、  
 諸陵式、小吉隱陵、皇太后紀氏、在大和国城上郡云々、今初瀬山七越  
 て、宇陀又行、道、小あり○丙戌十二日○戊寅五日○丙戌十三日  
 ○日本紀標注卷之二十六  
 五十一  
 德等物、各有差、八月、丙子、朔、巳亥、  
 幸吉野、乙巳、至自吉野、九月、乙巳  
 朔、戊申、原放、行獄徒繫、庚戌、小野、  
 朝臣毛野等、發向新羅、十月、乙亥  
 朔、乙酉、幸菟田、吉隱、丙戌、至自吉  
 隱、十二月、甲戌、朔、戊寅、幸吉野宮、  
 丙戌、至自吉野、賜淨大肆泊瀬、王  
 賻物



庚戌七日○甲  
寅十一日○戊  
午十五日○己  
未十六日○辛  
酉十八日○乙  
亥三日○乙酉  
十三日○乙巳  
三日○二槻宮  
齊明紀云、西槻  
樹邊起觀、号爲  
兩槻宮、續紀二  
云、今大倭國繕  
治二槻離宮○  
甲寅十二日○  
度嶋八箱館以  
北云、齊明紀  
云、渡嶋蝦夷一  
千餘、屯聚海畔、

十年春正月、甲辰朔庚戌、饗公卿  
大夫、甲寅、以直大肆、授百濟王南  
典、戊午、進御薪、己未、饗公卿百寮  
人等、辛酉、公卿百寮射於南門、二  
月癸酉朔乙亥、幸吉野宮、乙酉、至  
自吉野、三月癸卯朔乙巳、幸二槻  
宮、甲寅、賜越度嶋蝦夷、伊奈理武  
志、與肅慎志良守、叡草錦袍袴緋  
紺純芥等

續紀廿六云、勅出羽國曰、渡嶋蝦夷、早効丹心、來朝貢獻、爲日久、方今歸倭、作逆、侵  
擾邊民、云々、扶桑略記養老二年條云、出羽并渡嶋蝦夷、八十七人來、貢馬千疋、日  
本後紀廿六、陸奥國言、渡嶋秋二百餘人、來者部下氣仙郡、非當國所管、今之歸去、  
狄等云、時是寒節、海路難越、願候來春欲歸本郷、者許之、三代實錄廿七云、出羽國  
言、渡嶋荒狄反叛、水軍八十艘、殺略秋田飽海兩郡、百姓二十一、人、按云、上引ル  
る蝦夷等、ハ、松前箱館等の人ありけむ、今蝦夷と云、ハ、境界を別として、言語  
も通じ、山海ふりて、漁獵を業とし、穴居野栖、猪鹿と群をおふ、どうせしを、  
文政天保の頃、至て、ハ、木を掘立て草を刈て、屋根を作て、柱を覆ふとせ、と  
老つと云、皇御代の光の行、ハ、年々月々皇風小馴むつび、古の蝦夷ハ、  
ハ、向らじとぞ、原本越度嶋の上、賜字を落せり、通證を補へる、小従ふ

辛巳十日○戊  
戌廿七日○風  
速郡和名抄云、  
風早、小作、加  
佐波夜と注せ  
云、○皮石郡、和  
名抄云、合志、小  
作、加波志と

夏四月壬申朔辛巳、遣使者、祀廣  
瀨、大忌神、與龍田風神、戊戌、以追  
大貳、授伊豫國風速郡物部藥、與  
肥後國皮石郡壬生、諸石、并賜人



注せり ○壬生、  
姓氏録小、壬生、  
臣、大宅、臣同祖、  
天足彦国押人、  
命之後也 ○甲  
辰三日 ○秦造  
綱手ハ、天武九  
年、紀小、大錦下  
秦造綱手卒、由  
壬申、年之功、贈  
大錦上、位トあ  
るに、更小如此  
記せるハ、いふ  
加し ○乙巳四  
日 ○巳酉八日  
○尾張宿禰大  
隅、續紀七小、贈從五位上尾張宿禰大隅、息正八位下稻置等一  
十人、賜田各有差 ○甲寅十二日 ○大狗連ハ、天武紀小注せり

純四匹、絲十絢布二十、端歛二十  
口、稻一千束、水田四町、復戸、調役、  
以慰久苦唐地、巳亥、幸吉野宮、五  
月壬寅朔甲辰、詔大錦上秦造綱  
手、賜姓為忌寸、乙巳、至自吉野、巳  
酉、以直廣肆、授尾張宿禰大隅、并  
賜水田四十町、甲寅、以直廣肆、贈  
大狗連百枝、并賜賻物

戊子十八日 ○  
丙子廿六日 ○  
壬寅二日 ○戊  
申八日 ○庚戌  
十日 ○後皇子  
尊ハ、高市皇子  
ふて、後トハ先  
皇孫ハ、草壁皇  
子、子對、たる、  
扶桑略紀小、十  
年七月太政大  
臣高市皇子薨  
四十三とあり、  
諸陵式小三立  
岡、墓、高市皇子、  
在大和国廣瀨  
郡、兆域東西六  
町、南北四町、無

六月辛未朔戊子、幸吉野宮、丙申、  
至自吉野、秋七月辛丑朔、日有蝕  
之、壬寅、赦罪人、戊申、遣使者祀廣  
瀨大忌神、與龍田風神、庚戌、後皇  
子尊薨、八月庚午朔甲午、以直廣  
壹、授多臣品治、并賜物、褒美元從  
之功、與堅守關事、九月庚子朔甲  
寅、以直大壹、贈若櫻部朝臣五百  
瀨、并賜賻物、以顯元從之功



守戸志不在同郡大垣内村○甲午廿五日○守  
關ハ、天武紀ハ、塞不破道云々○甲寅十五日

乙酉十七日○  
致事ハ、致仕ハ  
九ナシ、禮、曲、禮  
ハ、大夫七十而  
致事、大令子致  
還其職事於君  
也、と注セリ○  
庚寅廿二日○  
資人、續紀五十  
取畿外人、用帳  
内資人、自今以  
後不得更然、又  
曰帳内資人、雖  
名入式部不在  
預選之限、同ハ  
ハ、始、以外六位

冬十月己巳朔乙酉、賜右大臣丹  
比真人輿杖、以哀致事、庚寅、假賜  
正廣參位、右大臣丹比真人、資人  
一百二十人、正廣肆次納言、阿倍  
朝臣御主人、大伴宿禰御行、並八  
十人、直廣壹石上、朝臣麻呂、直廣  
貳藤原朝臣不比等、並五十人、十  
一月己亥朔戊申、賜大宮大寺沙

内外六位、及勲  
七等子、年二十  
以上、為位分資  
人、八年一替、云  
々、資人七五位  
以上、賜ふを

門、弁通食封三十戸、十二月己巳  
朔、勅旨講讀金光明經、毎年十二  
月晦日、度淨行者一十人、

云、帳内ハ親王ヲ賜ふを云、軍防令ハ、一位一百人、二位八十人、三位六十人、正四位四十人、從四位三十五人、正五位二十五人、從五位二十人、女減半、又曰太政大臣三百人、左右大臣二百人、大納言一百人○阿倍朝臣御主人ハ、天武紀ハ見色  
ヨリ、本姓ハ布勢あり、續紀三ハ、右大臣從二位阿倍朝臣御主人薨、公卿補任ハ、  
年六十九、布勢、麻呂古之男ト云、○戊申  
十日○弁通、續紀五ハ、弁通法師、為少僧都  
甲辰七日、原本  
上ハ、戊戌朝の  
三字ヲ落セリ、  
集解ハ補たる  
ハ從ふ○戊申  
十一日○鰥寡

十一年春正月、戊戌朝甲辰、饗大  
夫等、戊申、賜天下、鰥寡孤獨、篤癡  
貧不能自存者、稻、各有差、癸丑、饗



孤獨、孟子、子老  
 而無妻曰嫠、老  
 而無夫曰寡、老  
 而無子曰獨、切  
 而無父曰孤、此  
 四者天下之窮  
 民而無告者○  
 篤癡字書云癡  
 病也○注セリ○癸丑十六日○甲午廿八日、釋紀小私記曰、愚案當卷三年夏四  
 月、太子草壁皇子薨、其後未立皇太子、而十一年二月丁卯朔甲午、召東宮大傅并  
 春宮大夫等、八月乙丑朔天皇、定策、禁中禪天皇位、於皇太子云々、以此案之、丁卯  
 朔、下可設壬午立珂瑠皇子、為皇太子之句歟、何則、案王子枝別記、云文武天皇少  
 名珂瑠皇子、天武天皇、皇太子、草壁皇子尊之子也、持統天皇十一年、春二月丁卯  
 朔壬午、立為皇太子云々、師說可謂史之失誤也、藤侍即同之云々、此說史の闕た  
 る以補ふべし、王子枝別記、世に傳へらば惜むべし、懷風藻、葛野王傳、高市皇  
 子薨、後皇太后引王公卿士、於禁中、謀立日嗣、時群臣各挾私好、衆議紛紜、王子進  
 奏曰、我國家為法也、神代以來子孫相承、以襲天位、若兄弟相及、則亂從此興、仰論  
 天心、誰能敢測、然以人事推之、聖嗣自然定矣、此外誰敢間然乎、弓削皇子在座、欲

有言王子此之乃止、皇太后嘉其一言云々、葛野王ハ、大友皇子の長男あり○東  
 宮大傅、職員令ふ、傅一人掌以道德、輔導東宮、義解ふ、東宮太子の所居也○春宮  
 大夫、和名抄云、春宮坊、美古乃美夜乃豆加佐、大夫ハ坊の長官也、職員令ふ、春  
 宮坊、大夫一人、掌納啓令、宮人、名帳考叙宿直事○亮、職員令ふ、春宮坊亮一人、  
 和名抄云、亮、須  
 介○甲辰、八日  
 ○己巳、四日○  
 滿選、選叙令ふ、  
 凡考滿應叙之  
 人、有上行異、  
 或尤達治體、皆  
 聽擢、以不次云  
 々、同令の義解  
 云、選者選擇也、  
 言、選才授官也  
 ○壬申、七日○  
 己卯、十四日○  
 癸卯、八日○丁  
 公卿百寮、二月丁卯朔甲午、以直  
 廣壹當麻、真人國見、為東宮大傅、  
 直廣參路、真人跡見、為春宮大夫、  
 直大肆巨勢、朝臣粟持、為亮、  
 是日至、自吉野、五月丙申朔癸卯、  
 遣大夫謁者、詣諸社、請雨、六月丙  
 寅朔丁卯、赦罪人、辛未、詔讀經於  
 三月丁酉朔甲辰、設無遮大會於  
 春宮、夏四月丙寅朔己巳、授滿選  
 者淨位、至直位、各有差、壬申、幸吉  
 野宮、己卯、遣使者祀廣瀨、與龍田、  
 是日至、自吉野、五月丙申朔癸卯、  
 遣大夫謁者、詣諸社、請雨、六月丙  
 寅朔丁卯、赦罪人、辛未、詔讀經於



卯二日○辛未  
六日○辛巳十  
五日○以下原  
本上下不作  
乙類聚国史  
とて改む  
甲申十九日○  
辛卯廿六日○  
癸卯廿八日○  
辛丑七日○  
釋紀私記曰  
鐸字可求と  
通證漢書  
司馬遷傳嬰  
金欽受辱と  
るに據て説  
作云と抹が  
たし、鐸を誤字

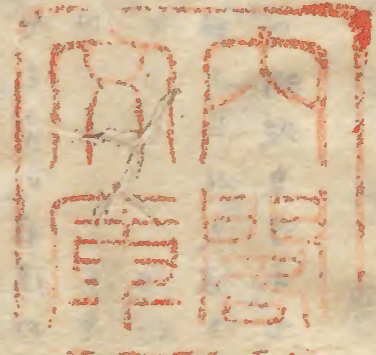
京畿諸寺、辛巳、遣五位以下、掃灑  
京寺、甲申、班幣於神祇、辛卯、公卿  
百寮始造為天皇病、所願佛像、癸  
卯、遣大夫謁者、詣諸社、請雨、秋七  
月乙未朔辛丑、夜半、常鐸盜賊、  
一百九人、仍賜布人四常、但外國  
者、稻人二十束、丙午、遣使者祀廣  
瀨、與龍田、癸亥、公卿百寮、設開佛  
眼會於藥師寺、八月乙丑朔、天皇

なるべし○外  
國ハ畿内小對  
なり  
定策禁中、禪天皇位於皇太子

○丙午十二日○癸亥廿九日○開佛眼、天智紀不見也、  
○藥師寺、高市郡、  
○禪天皇位、按、皇國に讓位と云、此、始也、是、先皇極紀、  
讓位於輕皇子とあるハ、由あるを忌、其事を洩らせり、されど社再、祚を踐坐、  
たれ、抑、天位ハ天津神と傳、後、御代の限、受持し、志ろしめ、是、天然  
の理、み、志ろらざれば、天津日繼ハ傳、り、たき、支那國ハ、然、正しき道  
なく、彼、堯舜とか云、ゆるものより、然、昇き業を、ド、前漢の末、不至、王莽  
らも、其、法とて、遂、今、世、至るまで、賊、國を奪、其、身、危きに臨むと  
すれば、禪讓と云、とを取り、出、す、り、たれ、此、天皇とて、後、の即位を、行、せ、  
ざりし、を、猶、何、ら、おぼ、ゆる、不、敵、位を讓、る、國、俗、と、讓、る、て、不、祿、の、れ、  
じ、ら、と、バ、と、等、し、並、ふ、思、ひ、混、そ、○皇太子ハ、珂瑠皇子、  
と謚、し、大御名を天之真宗、豊祖父、天  
皇、と稱、即、草壁皇子、尊の御子あり



日本紀標注卷之二十六終



題言

敷田君年治日本書紀標註刻將成余謂  
舍人親王之奉勅撰書託也體用漢文  
實為我邦正史之創始矣夫神世邈矣  
神祖創業垂統而末一系連綿已及二千  
五百五十餘年戴履之間未嘗有比類也  
而今欲窮其所由起以如姓時典章文物  
世間豈復有確實可據如書紀者哉然則  
真可謂不世寶典也而當時漢文之法未



兩故叙子往、以國語錯綜乃及後人讀  
之艱澁不易解者君於是以前國文為之標  
註括弧勸勵歷數十寒暑遂能成切焉其  
勤勞可想也君今年垂八十開生平所著  
書至三百餘卷之多而其益乎後人特以  
是書為最矣初君之將刻此書也思其獨  
力難辦博謀之於人余聞之與同志者二  
十餘人贊其事各投資助之以遂君志亦  
唯欲使後人得揆國典之益焉爾及刻成

因其囑言其次第以述之

明治二十四年四月

大阪府知事西村捨三



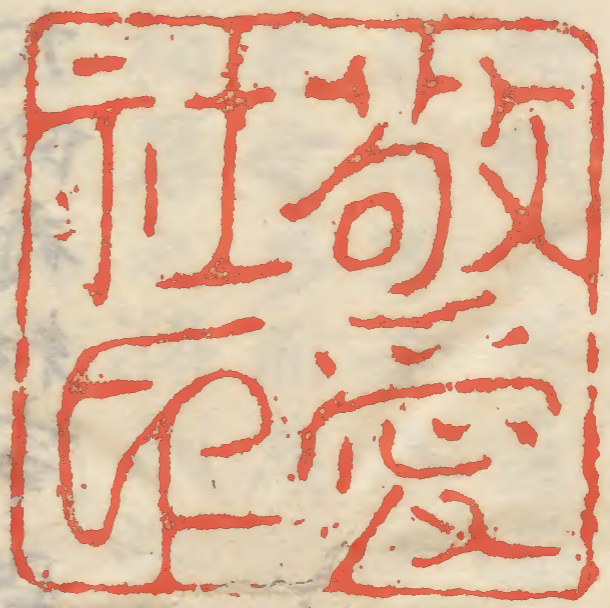


上梓公行贊助

古家彌太郎	土川茂平	山口善五郎	大浦彌三兵衛	辻滿伴	進藤嘉市郎	名越愛助	玉手弘通	田中市兵衛	平瀨龜之助	廣岡久右衛門	山内芳秋	西村捨三
小林林之助	椿木莊助	辰馬圭助	龜岡善兵衛	和	告田利兵衛	小泉清左衛門	馬場幸治	野口守敏	山口源兵衛	近藤喜祿	濱田甚兵衛	

陽曆二十日...

敬愛社





明治二十四年十二月一日印刷  
全 年十二月六日出版

版權公錄

著述者

數田年治

大阪市西區北堀江上通壹丁目  
二十八番屋敷

發行者

小林林之助

全 西區北堀江裏通壹丁目  
三十六番屋敷

有所權版

印刷者

松井秀太郎

立賣堀北通壹丁目  
八番屋敷

弘賣

書肆

名古屋

片野 東四郎

東京

北畠 茂兵衛

全

原 亮三郎

京都

出雲寺 文次郎

全

藤井 孫兵衛

大阪

松村 九兵衛

全

梅原 龜七

全

鹿田 靜七

廿四日十二月廿六日納本



